

第 2 期
宝達志水町人口ビジョン



令和 2 年 4 月
石川県 宝達志水町

目 次

1. 第2期宝達志水町人口ビジョンの策定にあたって.....	1
1) 策定の背景・目的.....	1
2) 対象期間.....	2
2. 人口の現状分析.....	3
1) 総人口と年齢別（3区分）人口の推移.....	3
2) 性別・年齢別（3区分）人口の推移.....	6
3) 人口の自然動態・社会動態.....	11
4. 通勤・通学者の状況.....	16
5. 産業別就業者数の推移.....	18
6. 人口の現状と課題.....	20
1) 年齢別（3区分）人口の課題.....	20
2) 性別・年齢別（3区分）人口構成の課題.....	20
3) 自然動態・社会動態の課題.....	20
7. 人口の将来推計.....	21
8. 目指すべき将来の方向.....	33
1) 目標人口.....	33
2) 目標人口の実現に向けて.....	33

1. 第2期宝達志水町人口ビジョンの策定にあたって

1) 策定の背景・目的

2008（平成20）年に始まった日本の人口減少は地方を中心に急速に進み、地方では地域経済の縮小、雇用の減退、生活関連サービスの低下を招き、さらなる大都市圏への人口流出を引き起こす悪循環に陥っています。

このような状況を食い止めるため、国は2014（平成26）年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定するとともに、日本の人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（長期ビジョン）」および、これを実現するための今後5か年の目標や施策ならびに基本的な方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略（総合戦略）」を策定しました。本町においても、「宝達志水町人口ビジョン」とこれに併せて「宝達志水町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、雇用の確保や定住促進、子育て世代の支援拡充などに取り組んできました。

その後、2019（令和元）年12月には国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の方向性が示され、この中では関係人口の充実・増加による都市部と地方とのつながりと新しいひとの流れを築くなどの多様な人材活用の推進とともに、地域における Society5.0^{※1}の推進や地方創生SDGs^{※2}の実現による持続可能なまちづくりなどの新たな視点が追加されています。

本町では、第1期の総合戦略の策定後においても、人口減少が継続して進行し、また、基本目標についても未達成のものがあり、今後もますます「まち」「ひと」「しごと」全ての充実が必要な状況です。

そのため、今後の目指すべき方向と人口の将来展望を示し、地方創生に取り組んでいくため第1期の人口ビジョンを見直し、「第2期 宝達志水町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「総合戦略」という。）」や2020（令和2）年3月に発出する「第2次宝達志水町総合計画（以下、「総合計画」という。）」などの道しるべとして、「第2期宝達志水町人口ビジョン」を策定します。

※1 人工知能（AI）やロボット、自動走行車などの技術により、人とモノが繋がり、今までにない新たな価値を生み出すことで、少子高齢化、地方の過疎化、貧富の格差などの課題が克服され、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合あえる社会、一人一人が快適で活躍できる社会となること。

※2 持続可能な開発目標（SDGs [Sustainable Development Goals]）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

2) 対象期間

対象期間：2020（令和 2）年～2060（令和 42）年

宝達志水町の人口ビジョンの対象期間は、国の長期ビジョンの期間を踏まえ 2060（令和 42）年とします。なお、2020（令和 2）年 3 月に策定する「総合計画」と「総合戦略」と整合性を図りつつ、人口目標の設定にあたっては、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）推計に準拠し基礎値としていきます。

2. 人口の現状分析

1) 総人口と年齢別（3区分）人口の推移

本町の総人口は、国勢調査結果をみると、1980（昭和55年）以降は、1985（昭和60）年に若干増加したものの、その後は一貫して人口減少となっています。一方、石川県全体は2005（平成17）年から減少傾向です。

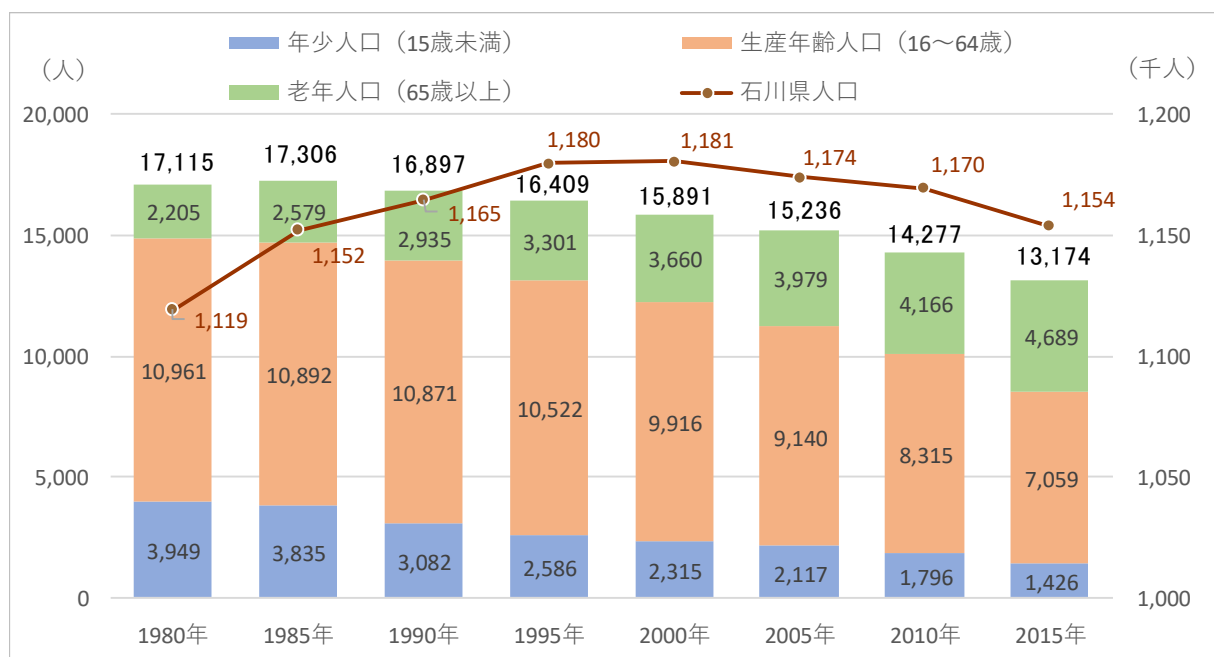
総人口の推移は、1980（昭和55）年には17,115人でしたが、2000（平成12）年には15,891人と1,224人（▲7.2%）減少し、その後も2015（平成27）年には13,174人と2,717人（▲17.1%）減少と、この35年間で総人口は3,941人（▲23.0%）減少しています。

これを、年齢3区分別にみると、15歳未満の人口（以下「年少人口」という。）は、1980（昭和55）年の3,949人から、2015（平成27）年には1,426人へと、この35年間で2,523人（▲63.9%）減少し半数以下となっています。

また、15歳から64歳の人口（以下「生産年齢人口」という。）では1985（昭和60）年の10,961人から、2015（平成27）年の7,059人へと、この35年間で3,902人（▲35.6%）の減少と約3分の2となっています。

一方で、65歳以上の人口（以下「老年人口」という。）は1980（昭和55）年の2,205人から、2015（平成27）年には4,689人へと、この35年間で2,484人（112.7%）の増加と2倍以上となっています。

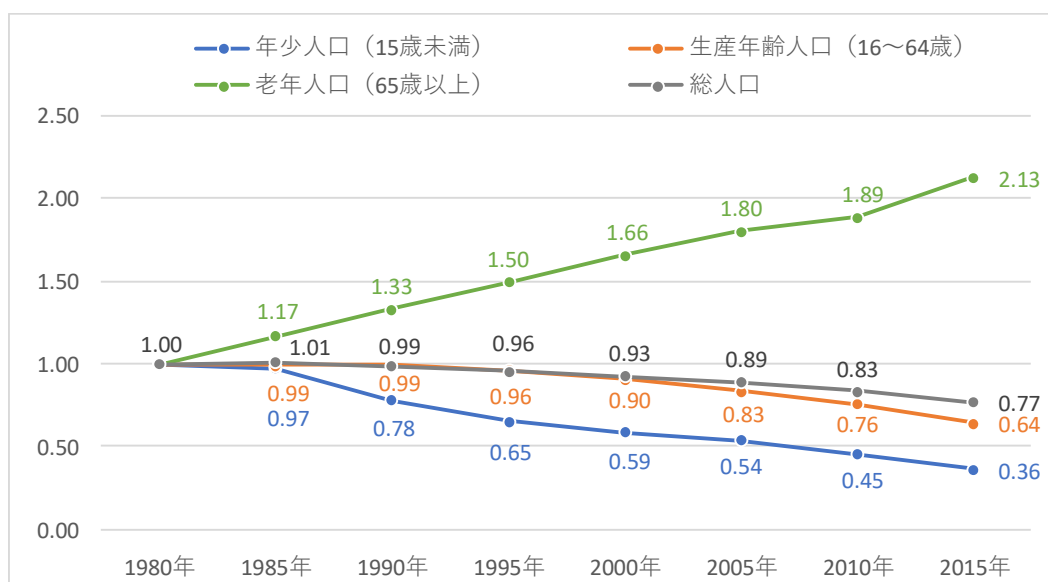
【年齢3区分別人口の推移】



出典：国勢調査

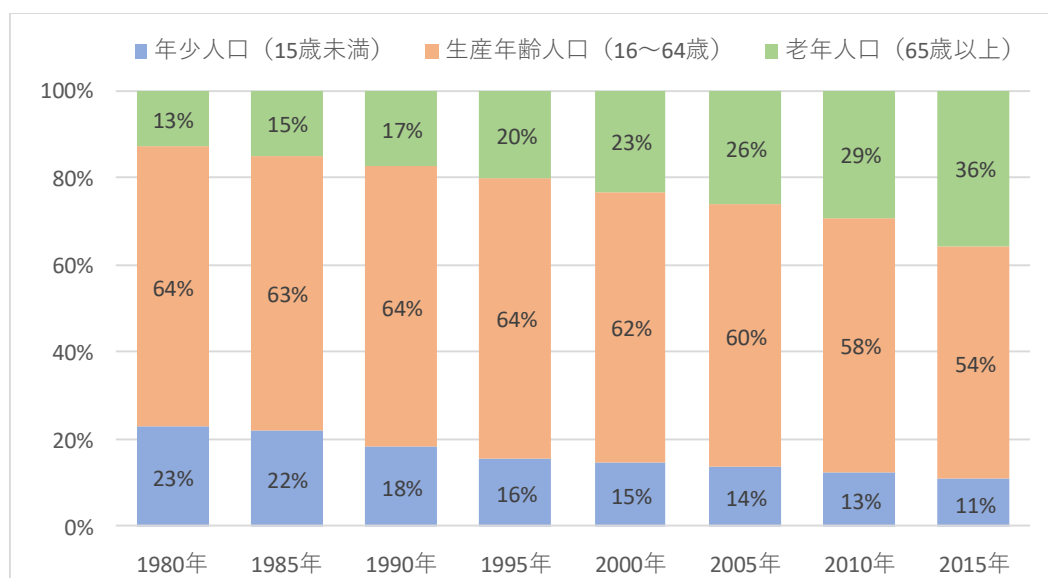
1980（昭和 55）年人口を 1.00 とした人口推移を見ると、1980（昭和 55）年と 2015（平成 27）年の比較では、高齢人口のみが増加傾向して 2 倍以上となっています。一方、年少人口は減少が著しく、約 4 割となっています。

【1980（昭和 55）年人口を 1.00 とした人口推移】



出典：国勢調査

【年齢 3 区分別人口割合の推移】



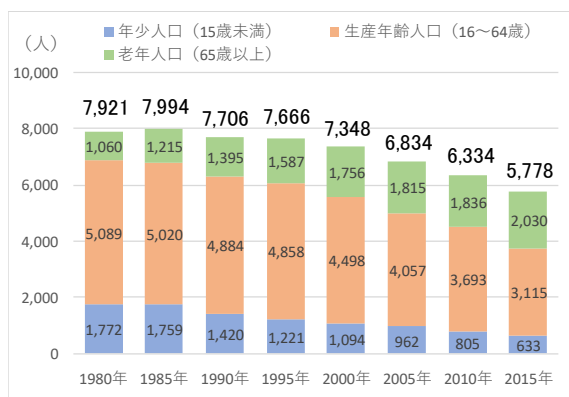
出典：国勢調査

年	年少人口 (15歳未満)		生産年齢人口 (16～64歳)		老年人口 (65歳以上)		人口総数	
	人	%	人	%	人	%	人	%
1980年	3,949	23	10,961	64	2,205	13	17,115	100
1985年	3,835	22	10,892	63	2,579	15	17,306	100
1990年	3,082	18	10,871	64	2,935	17	16,888	100
1995年	2,586	16	10,522	64	3,301	20	16,409	100
2000年	2,315	15	9,916	62	3,660	23	15,891	100
2005年	2,117	14	9,140	60	3,979	26	15,236	100
2010年	1,796	13	8,315	58	4,166	29	14,277	100
2015年	1,426	11	7,059	54	4,689	36	13,174	100

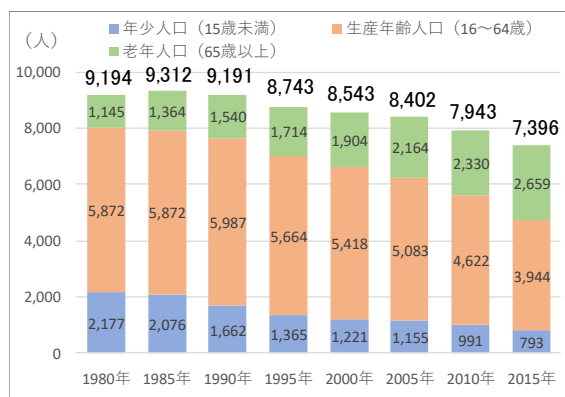
出典：国勢調査（年齢不詳は除く）

参考：旧町別人口推移

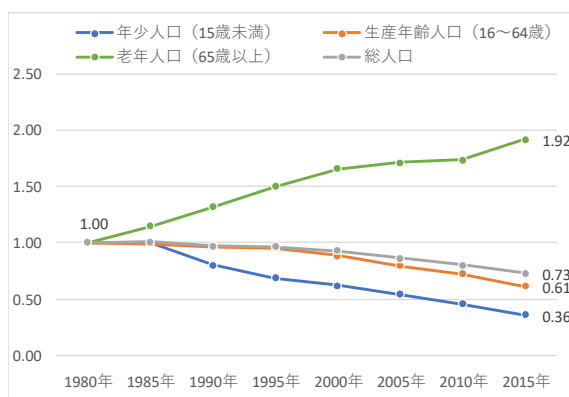
【年齢3区分別人口の推移（旧志雄町）】



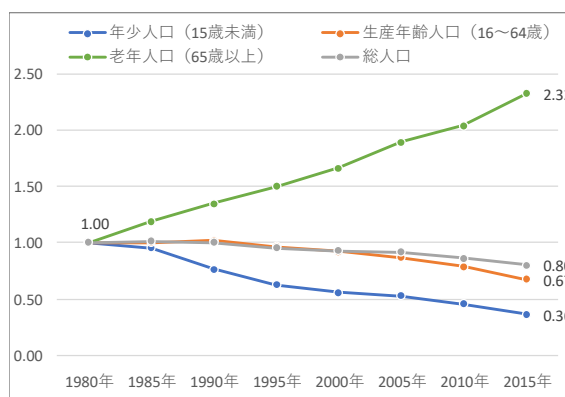
【年齢3区分別人口の推移（旧押水町）】



【年齢3区分別人口増減率の推移 （旧志雄町）】



【年齢3区分別人口増減率の推移 （旧押水町）】



出典：国勢調査

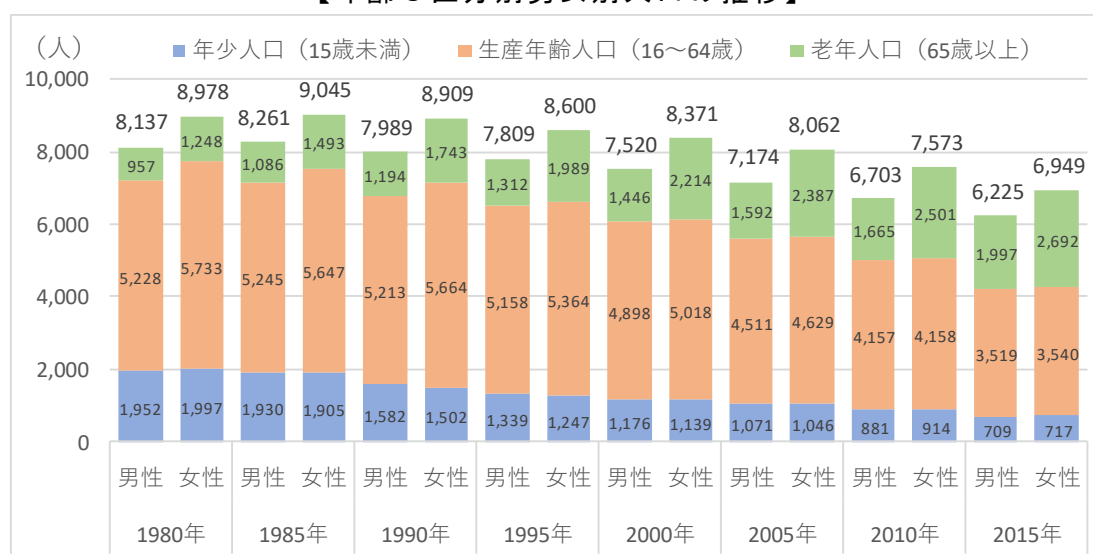
2) 性別・年齢別（3区分）人口の推移

年齢別（3区分）人口の推移について、男女別人口で見ると、年少人口ではわずかな差でほぼ男女が拮抗しており、生産年齢人口では、1980（昭和55）年以降、女性が若干多い傾向が続いていましたが、その差は徐々に小さくなっています。

老年人口では、1980（昭和55）年以降、一貫して女性が多いという結果となっており、徐々に男女差は広がっています。

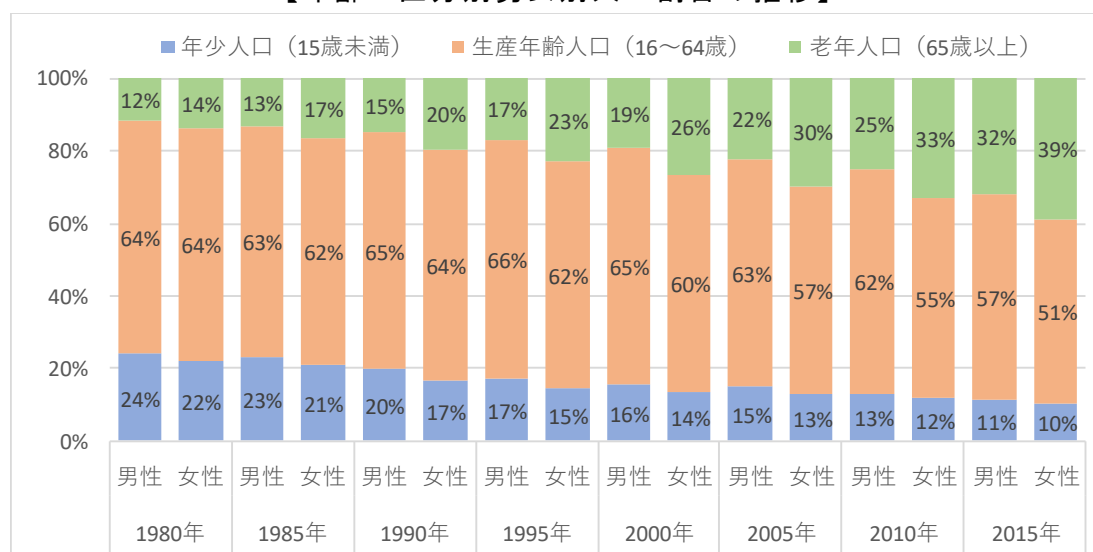
また、男性も女性も老年人口が増加し、年少人口、生産年齢人口は減少しています。

【年齢3区分別男女別人口の推移】



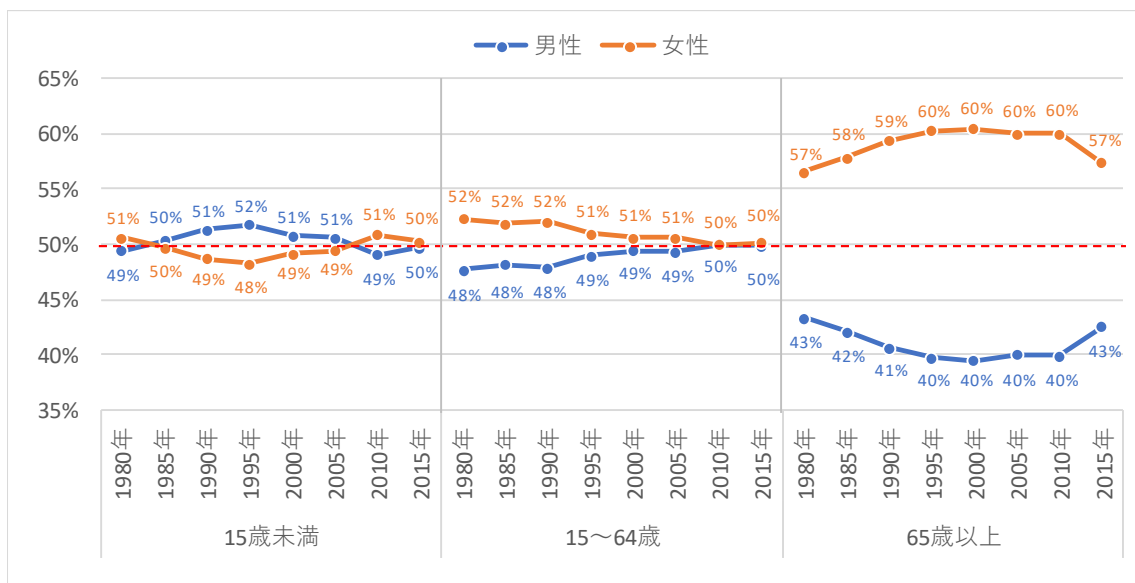
出典：国勢調査

【年齢3区分別男女別人口割合の推移】

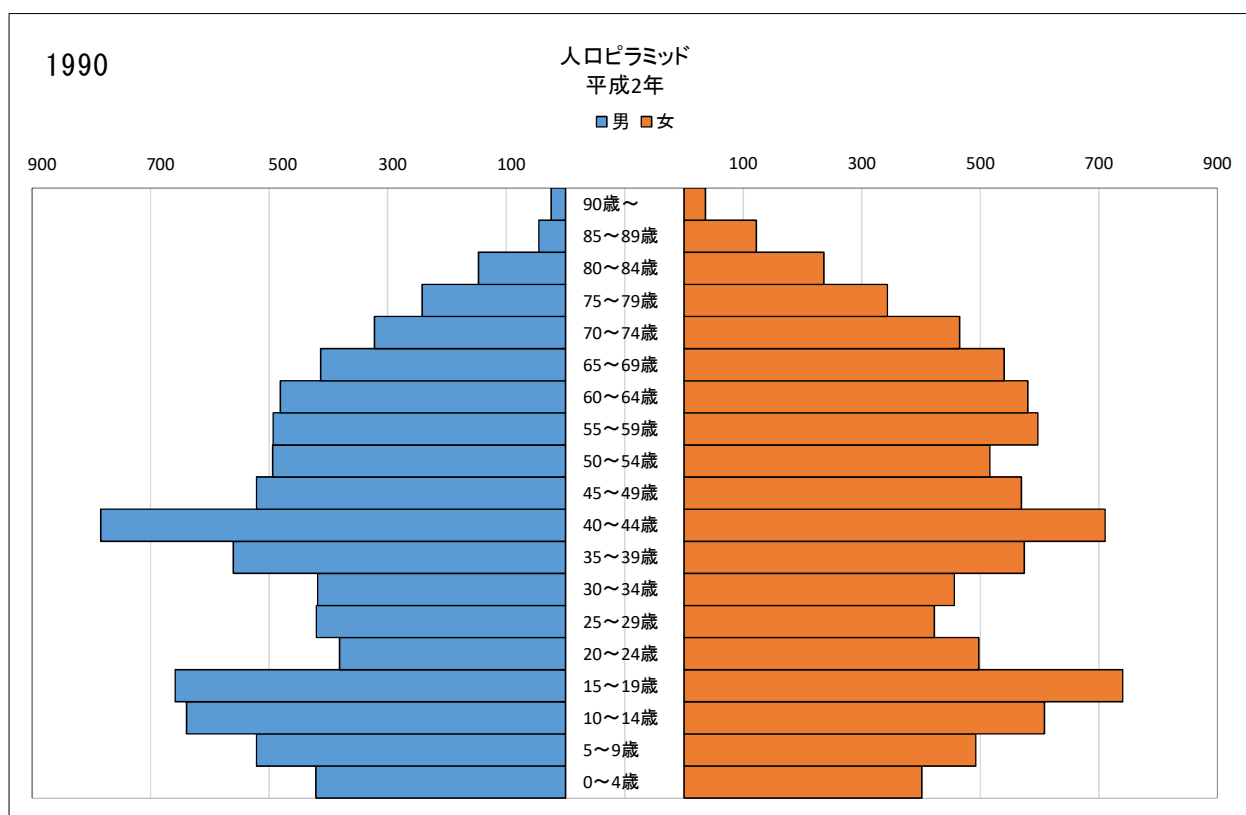
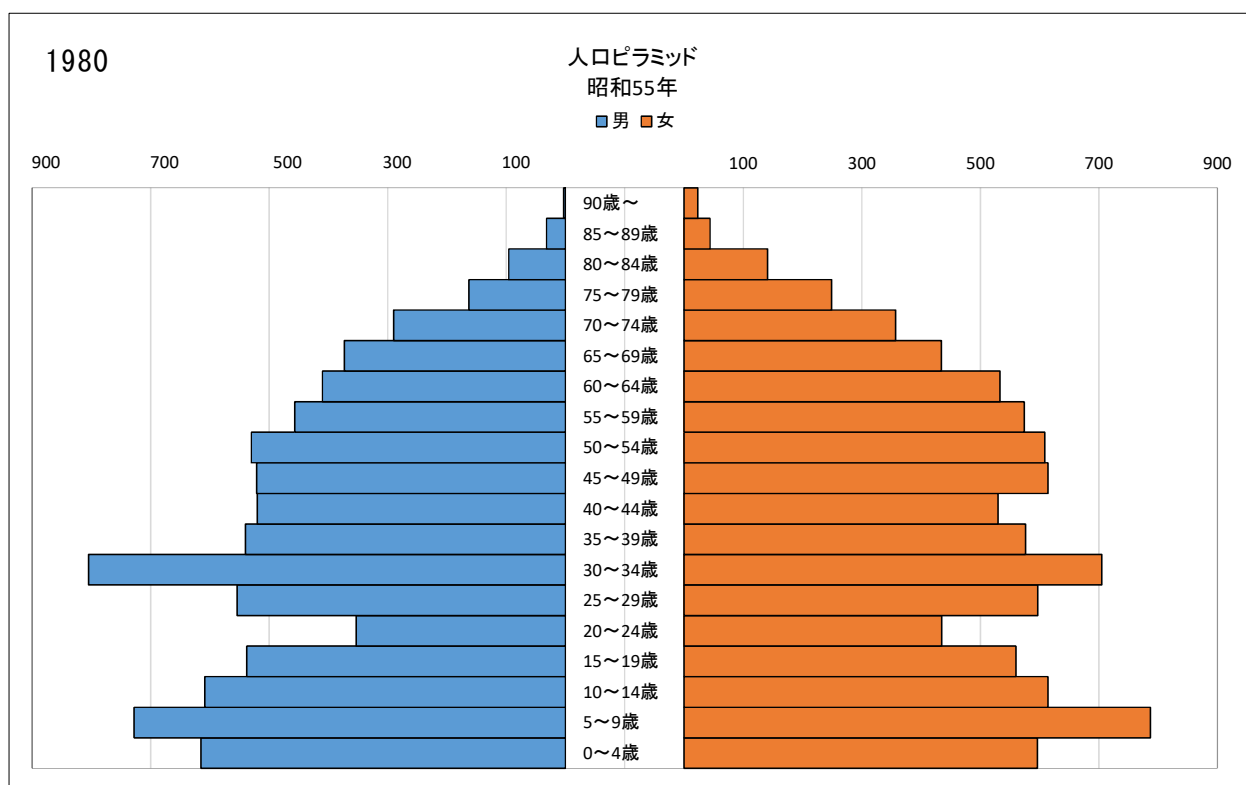


出典：国勢調査

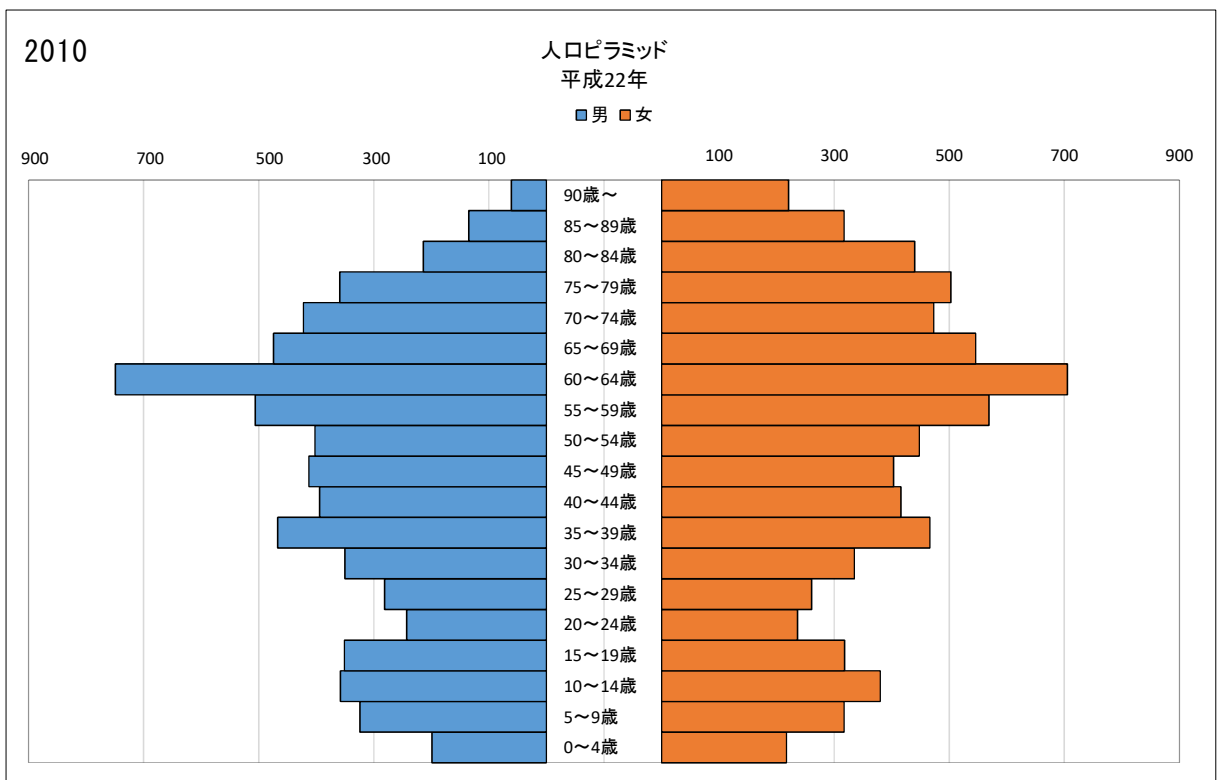
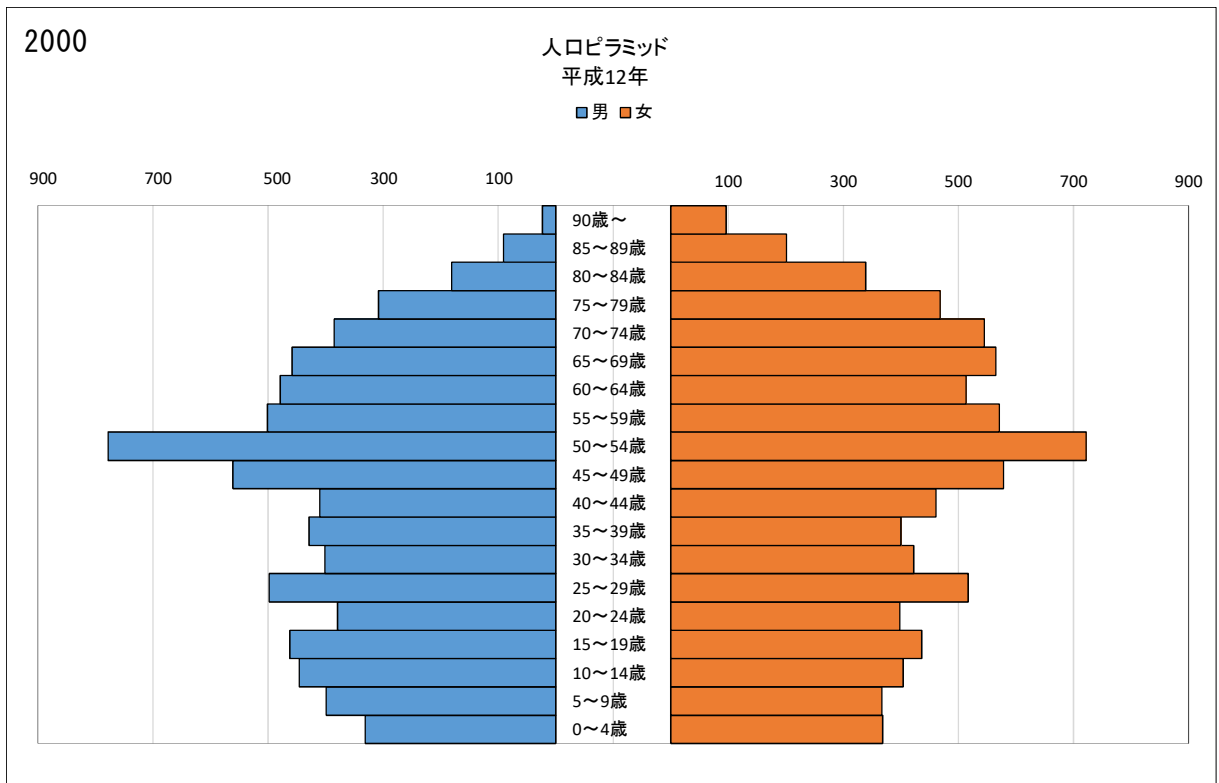
【年齢3区分別男女割合の推移】



出典：国勢調査

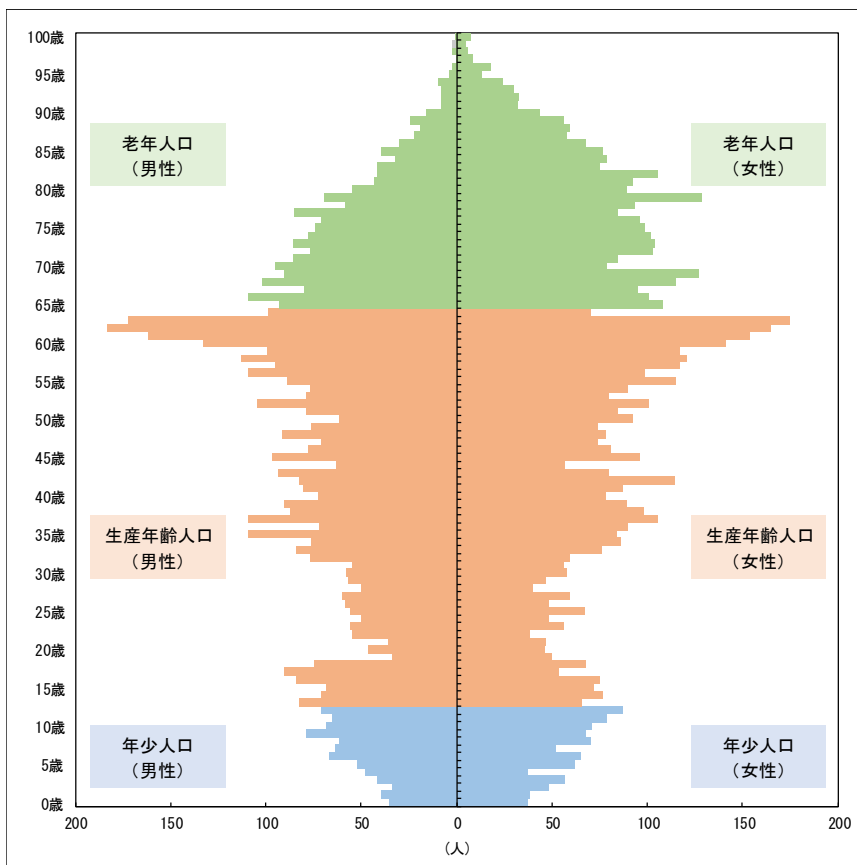


出典：国勢調査

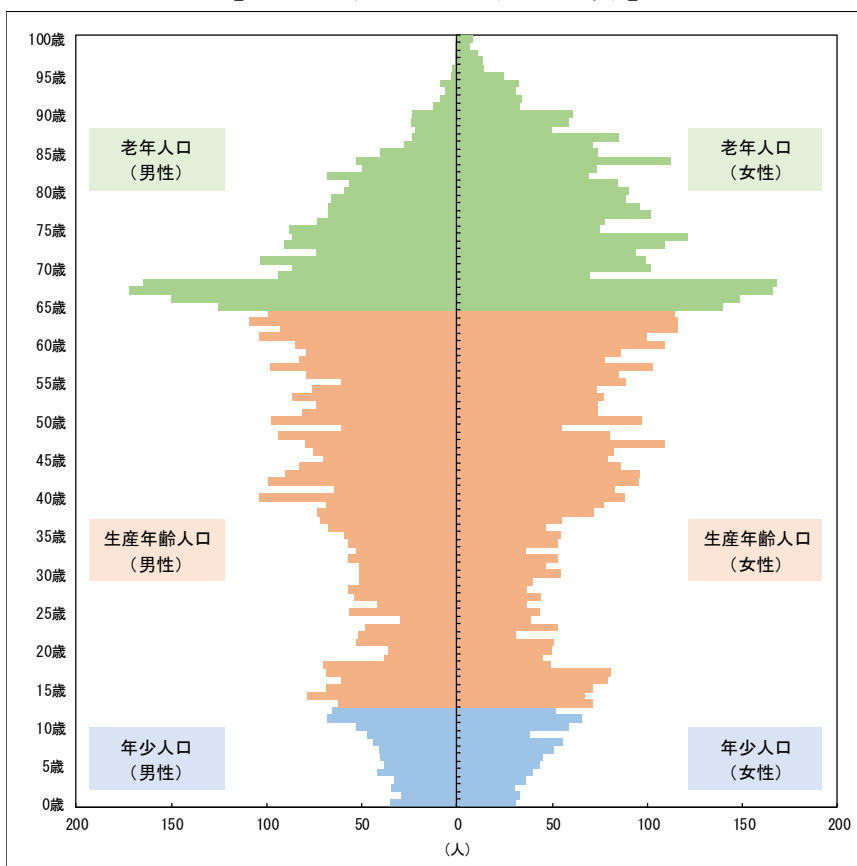


出典：国勢調査

【人口ピラミッド（2010 年）】



【人口ピラミッド（2015 年）】



出典：国勢調査

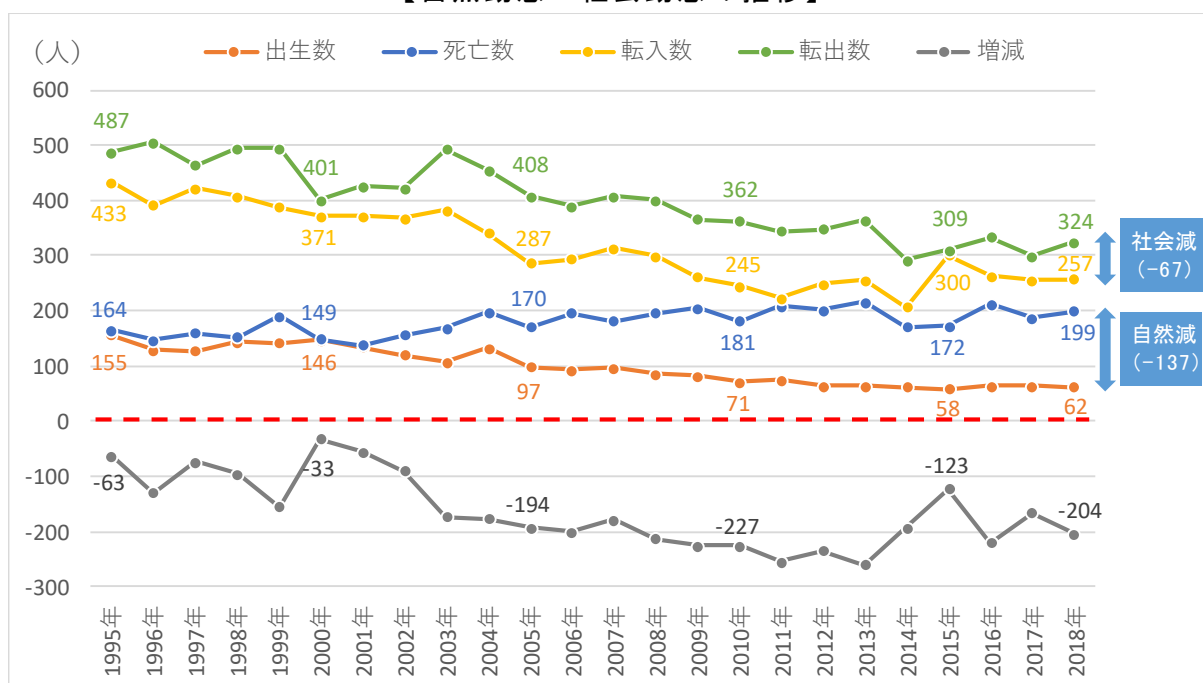
3) 人口の自然動態・社会動態

① 自然動態・社会動態

1995（平成7）年度以降の人口の自然動態では、死亡数が出生数を上回り、その差は年々大きくなり、人口減少の大きな要因になっています。2018（平成30）年の自然減は▲137人となっています。

社会動態では、一貫して転出者数が転入者数を上回る結果となっており、2018（平成30）年の社会減は▲67人となっています。

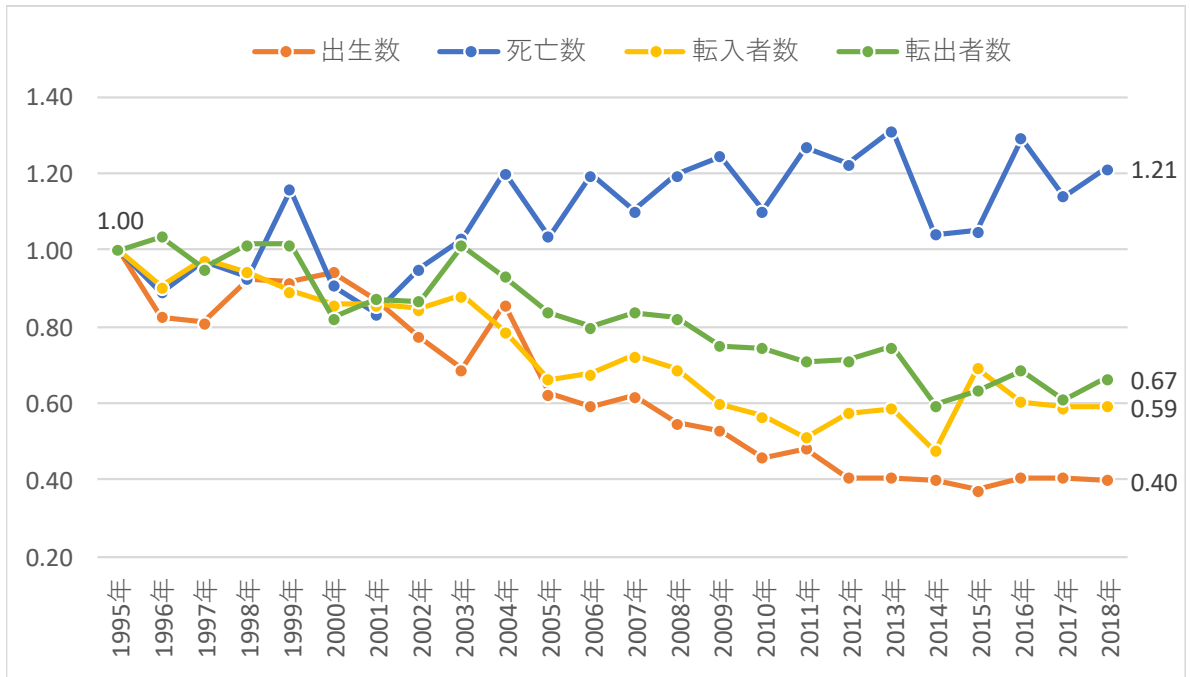
【自然動態・社会動態の推移】



出典：総務省統計局：住民基本台帳に基づく人口動態調査結果

注）住民基本台帳人口等は2014（平成26）年調査から調査期日が3月31日現在から1月1日現在に変更になっています。

【自然動態・社会動態の増減率の推移】



出典：総務省統計局：住民基本台帳に基づく人口動態調査結果
※1995（平成7）年を1とする

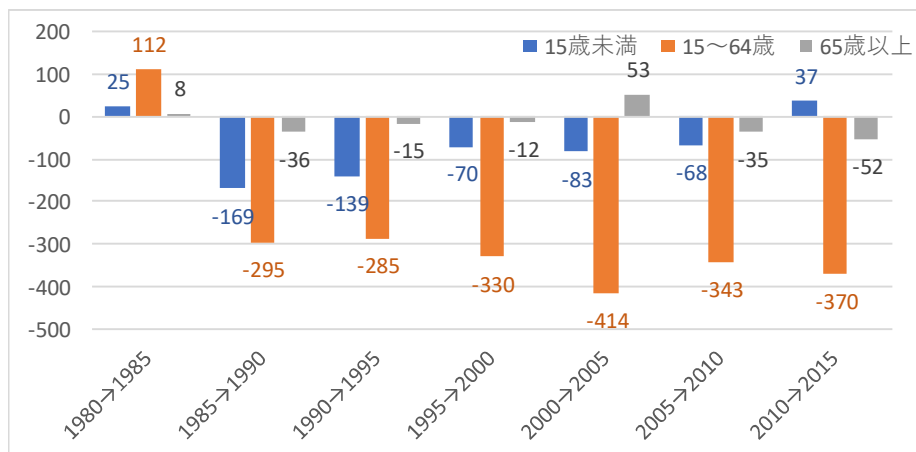
注) 2012（平成24）年7月に外国人住民が住民基本台帳法の適用対象となったため、平成24年度の自然増加率、社会増加率は基礎値がないため算出していません。

②年齢別（３区分）の移動数の推移

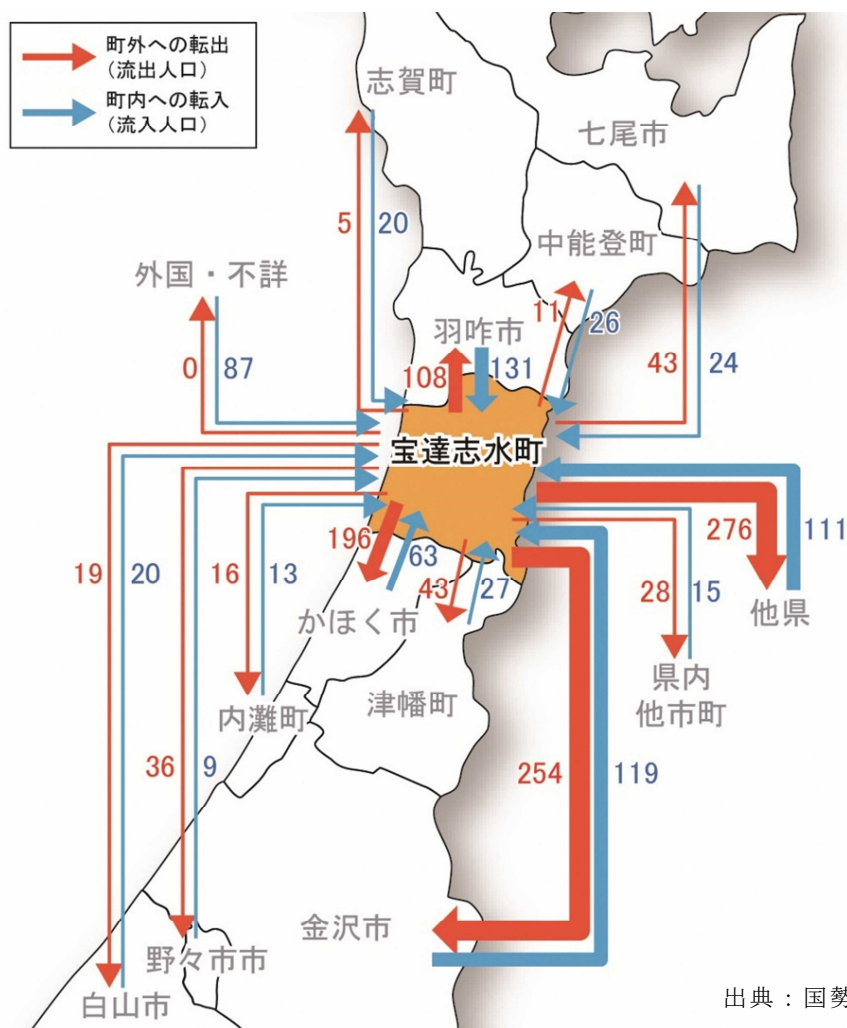
1980（昭和 55）年以降の転入・転出等による移動数の推移を年齢別（３区分）で見ると、1985（昭和 60）年以降は、生産年齢人口の社会減が最も多くみられます。

転出先のほとんどが県外と金沢市になっています。

【５年前の居住地との移動数の推移】



【５年前の居住地との転入・転出人口（2010→2015）】



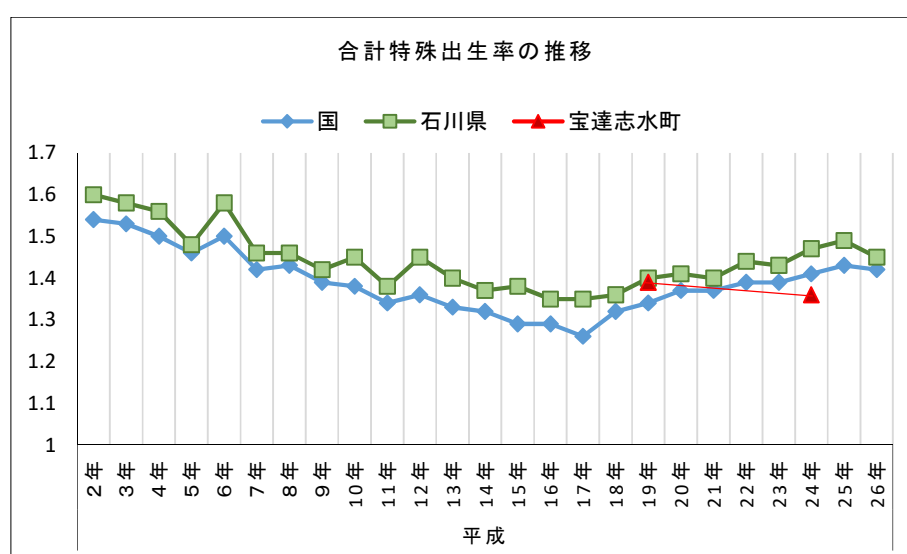
出典：国勢調査

③合計特殊出生率

国全体では、一生の間に女性が産む子どもの数に相当する合計特殊出生率は、2005（平成 17）年の 1.26 を底に回復傾向にあると言われていましたが、2015（平成 27）年 6 月に発表になった厚生労働省の統計 2014（平成 26）年では、9 年ぶりに減少して 1.42 となり、前年を 0.01 ポイント下回りました。なお、石川県では 2004（平成 16）年以降は回復傾向にありましたが、2014（平成 26）年は 1.45 となり、前年に比べて 0.04 ポイント減少しました。

本町の合計特殊出生率は、人口動態保健所・市区町村別統計（平成 20～平成 24 年）では 1.36 となっています。

※合計特殊出生率…15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの



【合計特殊出生率の推移】

	国	石川県	宝達志水町		国	石川県	宝達志水町
1990(平成 2)年	1.54	1.60		2003(平成15)年	1.29	1.38	
1991(平成 3)年	1.53	1.58		2004(平成16)年	1.29	1.35	
1992(平成 4)年	1.50	1.56		2005(平成17)年	1.26	1.35	1.39
1993(平成 5)年	1.46	1.48		2006(平成18)年	1.32	1.36	
1994(平成 6)年	1.50	1.58		2007(平成19)年	1.34	1.40	
1995(平成 7)年	1.42	1.46		2008(平成20)年	1.37	1.41	
1996(平成 8)年	1.43	1.46		2009(平成21)年	1.37	1.40	
1997(平成 9)年	1.39	1.42		2010(平成22)年	1.39	1.44	1.36
1998(平成10)年	1.38	1.45		2011(平成23)年	1.39	1.43	
1999(平成11)年	1.34	1.38		2012(平成24)年	1.41	1.47	
2000(平成12)年	1.36	1.45		2013(平成25)年	1.43	1.49	
2001(平成13)年	1.33	1.40		2014(平成26)年	1.42	1.45	
2002(平成14)年	1.32	1.37					

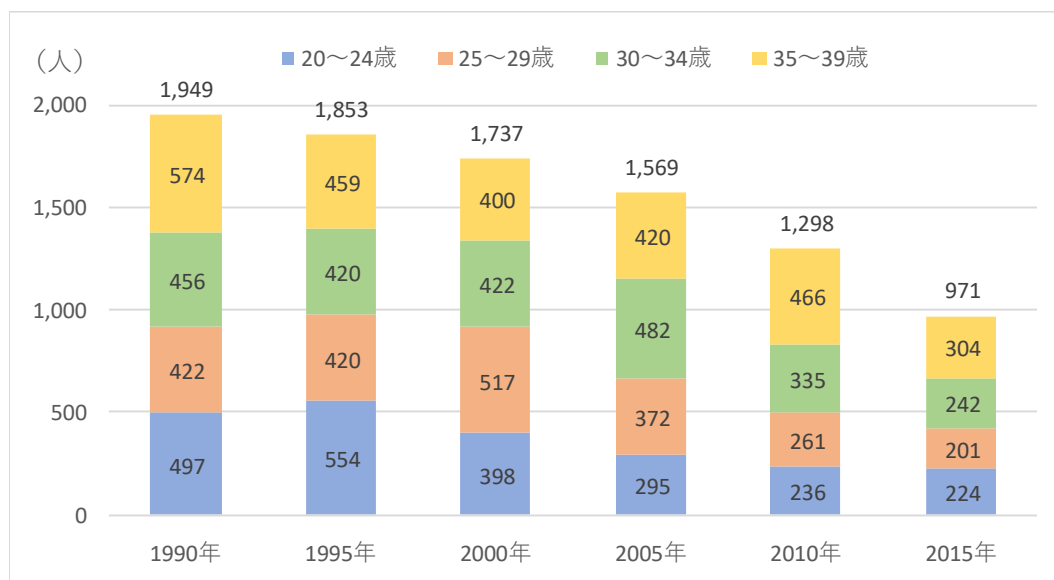
出典：厚生労働省「人口動態統計年報・主要統計表」及び「人口動態保健所統計資料」

※最新値は 2020（令和 2）年公表予定

④妊娠・出産適齢期女性人口の推移

満 20 歳から 39 歳の女性の人口推移を 1990（平成 2）年以降で見ると、一貫して減少傾向が続き、1990（平成 2）年の 1,949 人から 2015（平成 27）年の 971 人へと、この 25 年間で 978 人（▲50.1%）減少し、約半数になっています。

【妊娠・出産適齢期女性人口の推移】



出典：国勢調査

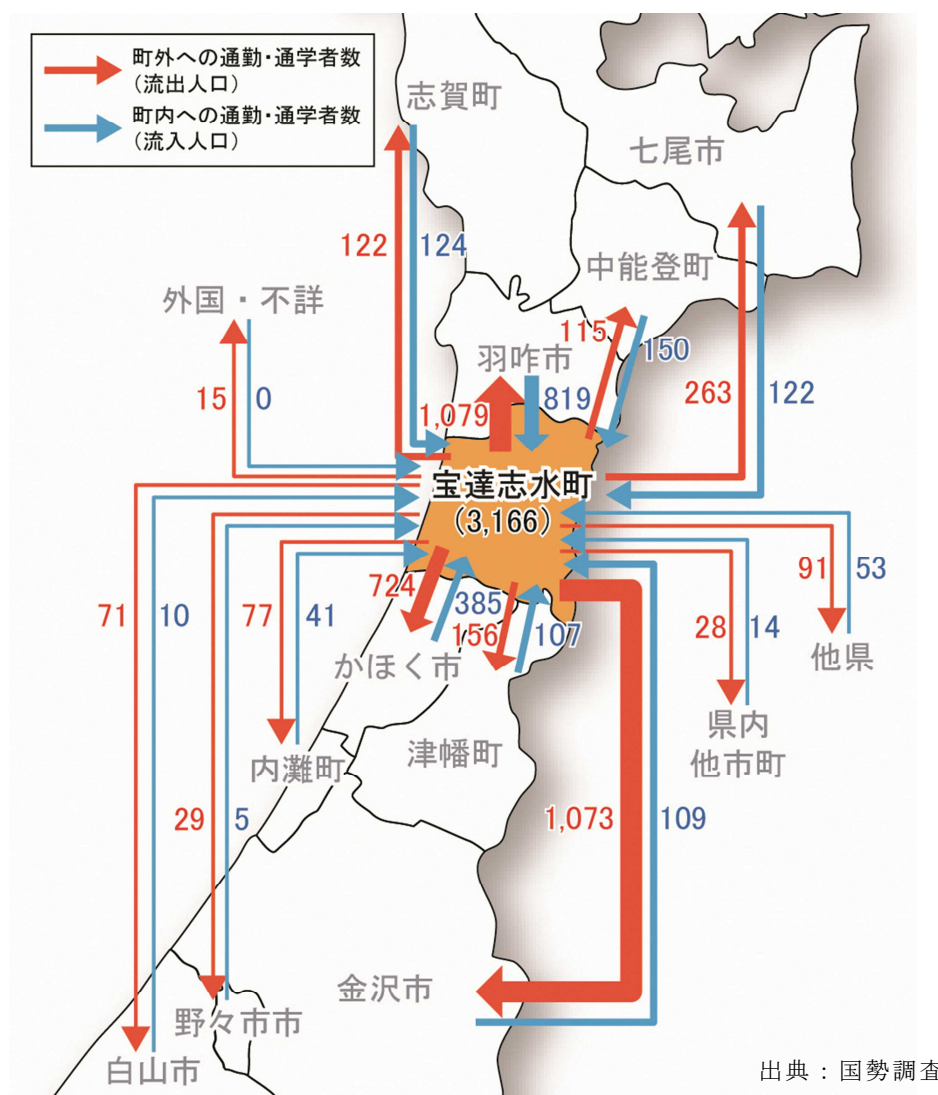
4. 通勤・通学者の状況

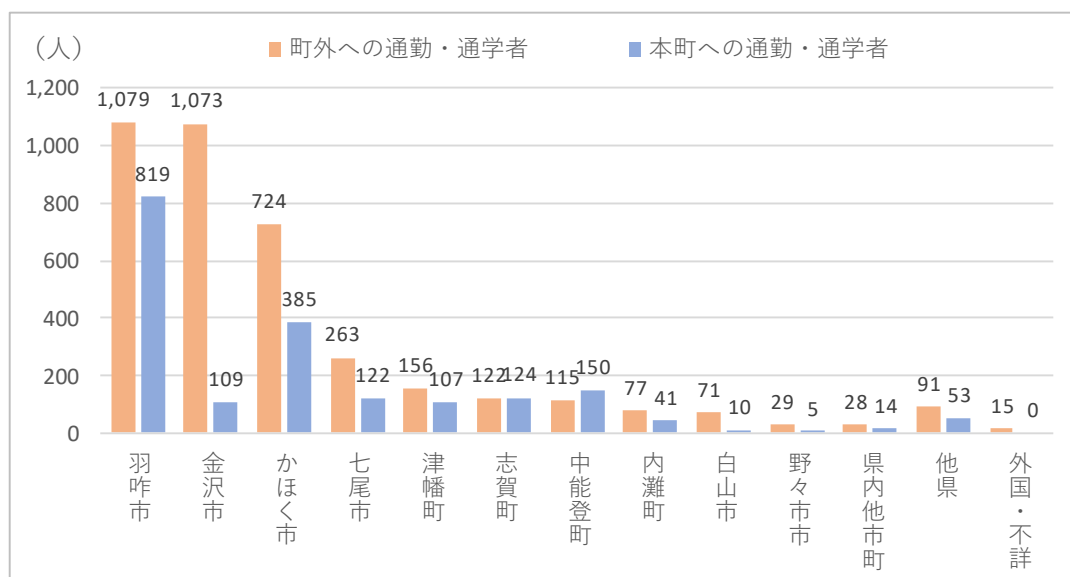
1) 通勤・通学者の状況

本町から町外への通勤・通学者の状況を、2015（平成 27）年の国勢調査結果で見ると、羽咋市へ 1,079 人、金沢市へ 1,073 人、かほく市へ 724 人などとなっています。

一方で、本町へは、羽咋市から 819 人、かほく市から 385 人、中能登町から 150 人などとなっています。

【通勤・通学先人口（2015 年）】





出典：国勢調査

【昼夜間人口比率】

	国勢調査人口	当地に常住する 就業者・通学者 数	当地で就業・通 学する就業者・通 学者数	昼間人口	昼夜間人口比率
	A	B	C	D=A-B+C	D/A*100
2000年	15,891	8,962	6,334	13,263	83.5%
2005年	15,236	8,170	5,906	12,972	85.1%
2010年	14,277	7,313	5,335	12,299	86.1%
2015年	13,174	7,028	5,139	11,285	85.7%

出典：国勢調査

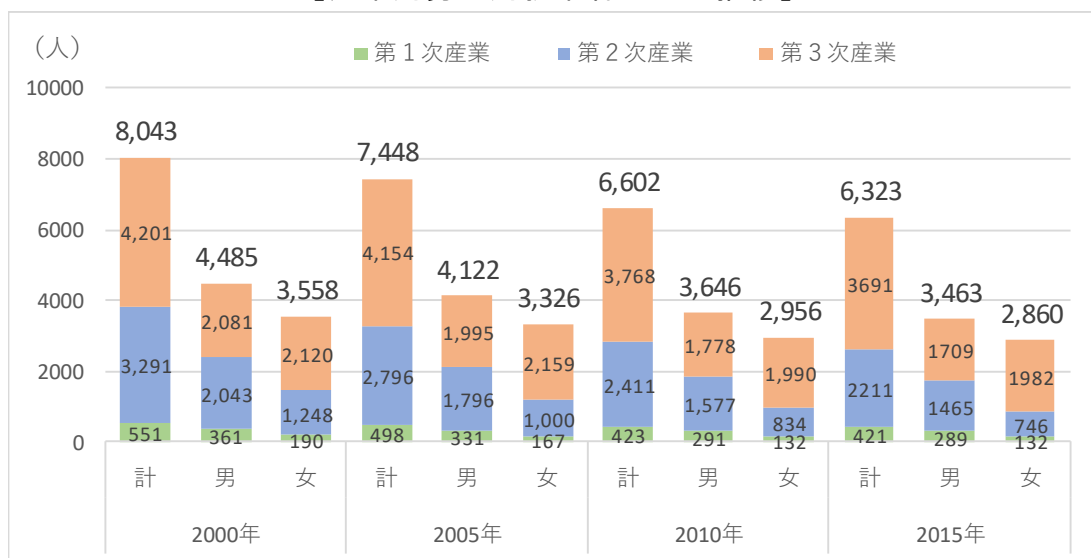
5. 産業別就業者数の推移

1) 産業別就業者数の推移

産業別就業者数について、2000（平成 12）～2015（平成 27）年度の国勢調査結果で見ると、生産年齢人口の減少に伴い、この 10 年間で総就業者数は 7,448 人から 6,323 人と 1,125 人（▲15.1%）の減少となっています。

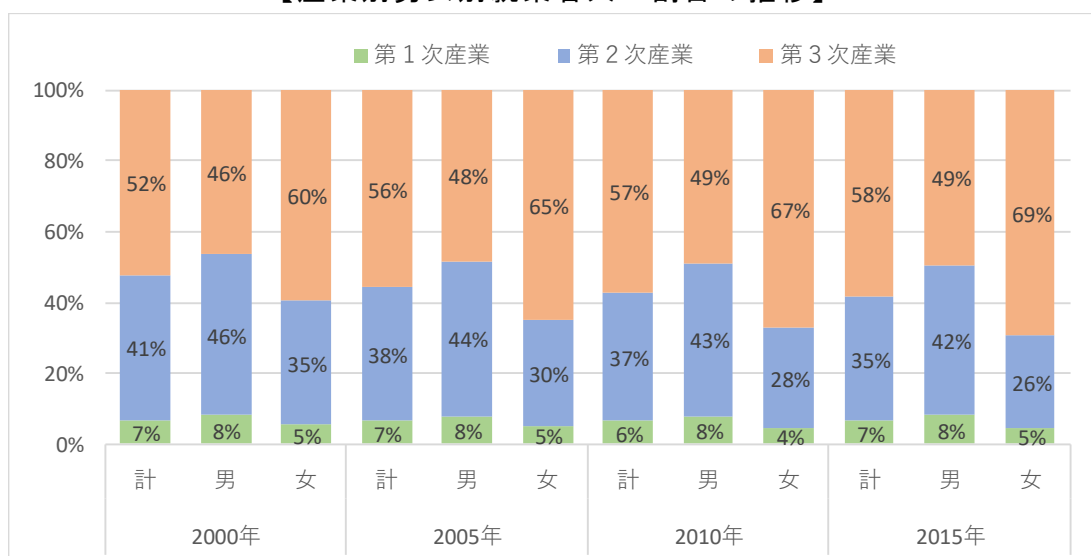
また、ここ 10 年間を人口割合でみると、総計では大きな変化はありませんが、女性の第 3 次産業が若干増加しています。

【産業別男女別就業者人口の推移】



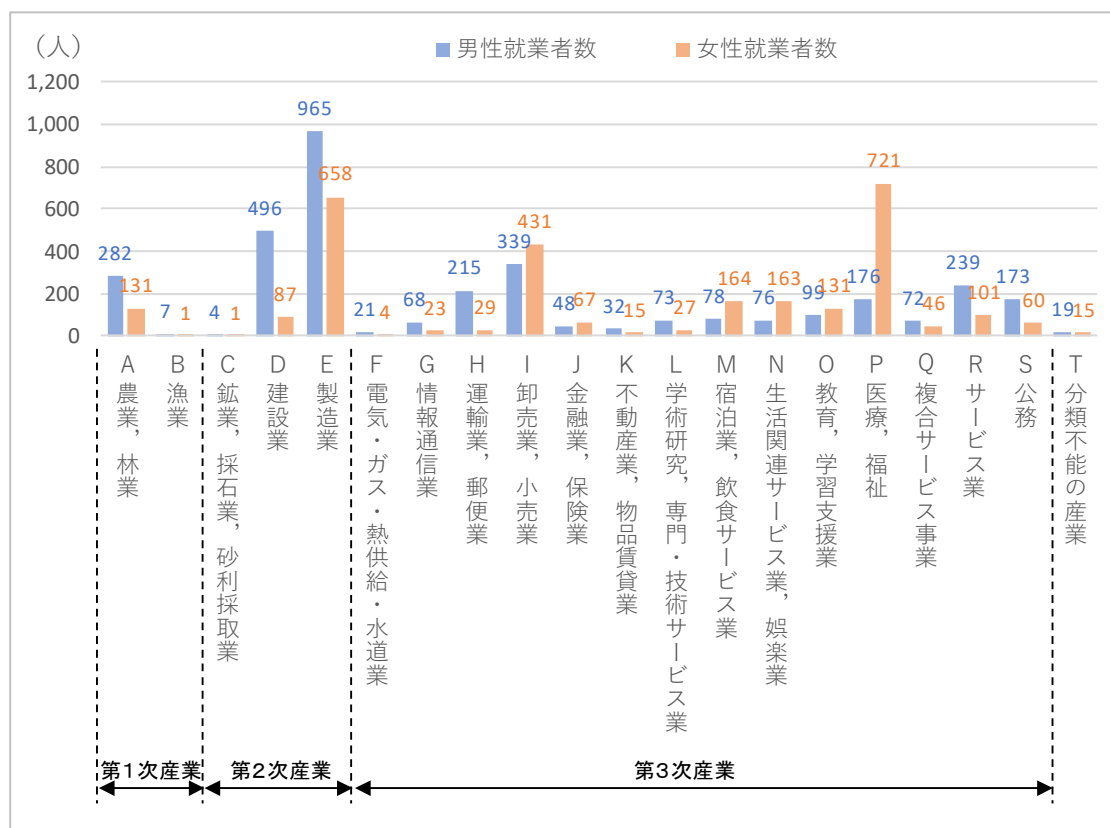
出典：国勢調査

【産業別男女別就業者人口割合の推移】



出典：国勢調査

【産業大分類別男女別就業者人口（2015年）】



出典：国勢調査

6. 人口の現状と課題

1) 年齢別（3区分）人口の課題

- ・年少人口の急激な減少と生産年齢人口の減少、老年人口の急激な増加

本町では総人口の継続的な減少が見られ、特に年少人口と、生産年齢人口のうち若年層の減少が続いている一方で、老年人口が急激に増加しています。

生産年齢人口の減少は町の税収にマイナス効果となり、特に若年層の減少に歯止めをかける必要があります。また、高齢化率の高まりは税収の減少とともに要介護者の増加、要介護度の上昇等による医療費、介護給付費の増加が見込まれ、行財政を取り巻く環境が悪化することが懸念されます。このため高齢者が持つ技能を活かして地域内で活躍し、多世代交流が促進され、生きがいを持って社会参加を続けることで、健康寿命の伸長が図れる環境づくりを推進し、平均寿命との差を縮小することも課題となっています。

2) 性別・年齢別（3区分）人口構成の課題

- ・女性が安心して出産・子育てできる環境づくり

地方に一般的に見られる現象ですが、生産年齢人口のうち若年層では男性が多く、女性が少ない傾向にあり、結果として結婚・出産の機会は減少し、少子化は一層進行することとなります。

本町においても、2010（平成22）年と2015（平成27）年では、15歳から39歳の男女別人口は、女性が少ない結果になっています。

結婚・出産適齢期といわれる年代の女性が、安心して出産・子育てできる環境づくりを進め、一度町外へ出た若年女性がUターンできる環境づくりを推進することにも必要となっています。

3) 自然動態・社会動態の課題

- ・減少傾向が続く自然動態と転入者を上回る転出者に歯止めをかける

減少傾向が続く自然動態と転入者数を上回る転出者数に歯止めをかけるために、現在進めている地域産業の活性化に向けた施策や、新たな就農者への移住支援に向けた施策の推進が必要です。また、豊かな自然環境の保全と連動した新規就農希望者への支援や、観光産業等の育成・推進により、若者たちの創業・起業意欲を喚起し、若者自身による働く場を確保することも課題となっています。

7. 人口の将来推計

1) 人口の将来推計

人口推計結果の参考として、②～⑤の4パターンの推計を行いました（①は社人研の推計）。

推計方法は、自然動態の変化を「合計特殊出生率」、社会動態の変化を「(市町村間の転出入の)移動率」で設定し、「社人研準拠」や「町独自推計」で算出（コーホート要因法）します。町独自の設定は、第2次総合計画や総合戦略の実現により、「合計特殊出生率」や「移動率」が改善することを想定して設定します。

【推計のパターン】

推計パターン		合計特殊出生率	移動率
①	H30 社人研推計	社人研推計準拠	社人研推計準拠
②	パターン1 【第1期 町独自踏襲】	2015 年 1.36 2030 年 1.8 2040 年以降 2.07	2030 年以降は移動率を均衡
③	パターン2	2015 年 1.36 2035 年以降 1.8	2030 年以降は移動率を均衡
④	パターン1(封鎖なし)	2015 年 1.36 2035 年 1.8 2045 年以降 2.07	社人研推計準拠
⑤	パターン2(封鎖なし)	2015 年 1.36 2035 年以降 1.8	社人研推計準拠
参考 1	第1期 町独自推計	2015 年 1.36 2030 年 1.8 2040 年以降 2.07	2030 年以降は移動率を均衡
参考 2	H27 社人研推計	社人研推計準拠	社人研推計準拠

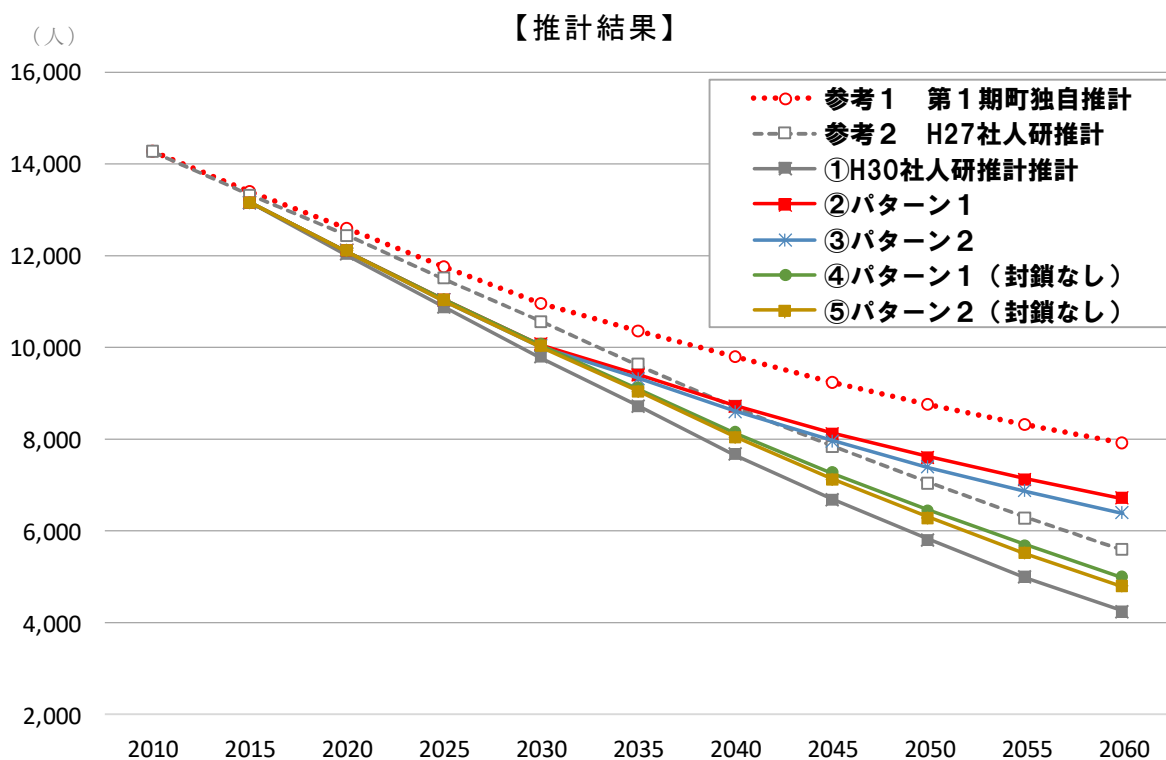
※合計特殊出生率の数値根拠

1.36 (厚生労働省公表の宝達志水町の値(2012年))

1.8 (国の一億総活躍プランにおける2021年までの目標)

2.07 (人口が維持できる値で、国の2040年までの目標)

各パターンの算出結果は次の通りです。

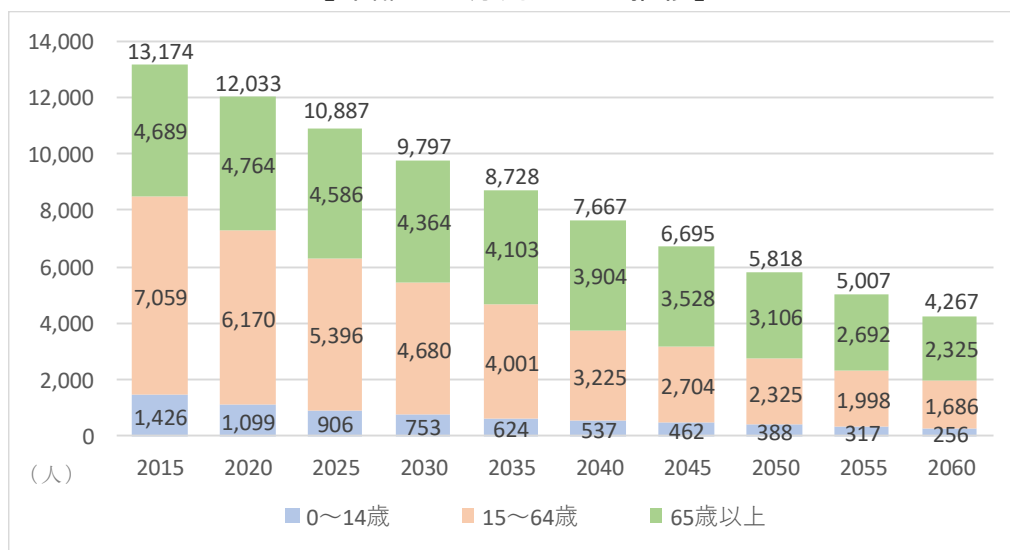


	2010	2015	2020	2030	2040	2050	2060
参考1 第1期町独自推計	14,277	13,381	12,583	10,968	9,784	8,758	7,938
参考2 H27社人研推計	14,277	13,331	12,443	10,570	8,722	7,063	5,594
①H30社人研推計推計	—	13,174	12,033	9,797	7,667	5,818	4,267
②パターン1	—	13,174	12,110	10,077	8,736	7,610	6,727
③パターン2	—	13,174	12,101	10,034	8,622	7,397	6,398
④パターン1（封鎖なし）	—	13,174	12,110	10,077	8,156	6,457	5,001
⑤パターン2（封鎖なし）	—	13,174	12,101	10,034	8,058	6,302	4,808

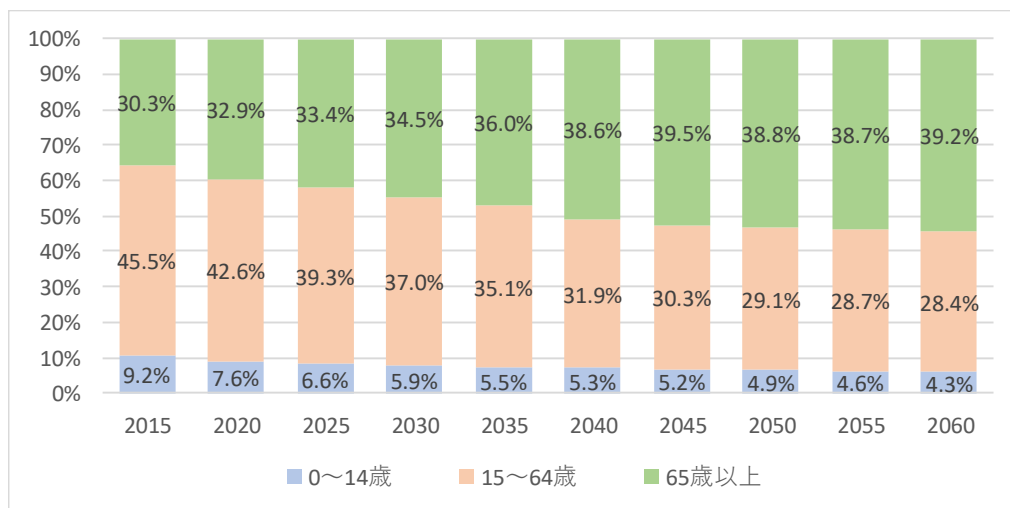
①H30 社人研推計

①～⑤の推計のなかで最も人口減少が大きく、2060（令和 42）年の総人口が 4,267 人（▲67.6%）となります。老年人口が 2035（令和 17）年で生産年齢人口を上回り、年少人口は 2050（令和 32）年に 5 %を下回ります。

【年齢 3 区分別人口の推移】



【年齢 3 区分別人口割合の推移】



【人口の推移と推計人口】

	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
合 計	13,174	12,033	10,887	9,797	8,728	7,667	6,695	5,818	5,007	4,267
0～4 歳	343	293	230	195	170	146	123	99	79	65
5～9 歳	443	364	312	246	209	182	157	132	106	85
10～14 歳	640	442	364	312	246	209	182	157	132	106
15～19 歳	632	548	378	311	267	210	179	156	135	113
20～24 歳	443	421	364	252	207	177	140	119	104	89
25～29 歳	461	432	409	359	247	204	175	138	117	103
30～34 歳	511	436	411	391	343	236	195	168	132	112
35～39 歳	644	481	413	390	371	326	223	185	160	126
40～44 歳	888	613	458	394	372	354	311	213	177	152
45～49 歳	785	862	595	444	382	361	344	303	208	172
50～54 歳	809	759	835	576	430	370	350	334	293	201
55～59 歳	841	800	752	828	572	427	368	348	332	292
60～64 歳	1,045	818	780	734	810	560	418	360	341	325
65～69 歳	1,398	1,007	790	753	712	786	543	406	349	330
70～74 歳	965	1,322	957	753	719	681	753	520	389	334
75～79 歳	801	869	1,194	870	687	656	625	691	476	355
80～84 歳	714	654	720	997	732	583	557	533	589	404
85～89 歳	476	524	489	549	772	572	462	440	423	466
90 歳以上	335	388	437	442	481	627	587	515	467	436

＜年齢4階級別人口＞

0～14 歳	1,426	1,099	906	753	624	537	462	388	317	256
15～64 歳	7,059	6,170	5,396	4,680	4,001	3,225	2,704	2,325	1,998	1,686
65～74 歳	4,689	4,764	4,586	4,364	4,103	3,904	3,528	3,106	2,692	2,325
75 歳以上	2,326	2,435	2,839	2,858	2,672	2,437	2,232	2,180	1,954	1,661

＜年齢4階級別人口割合＞

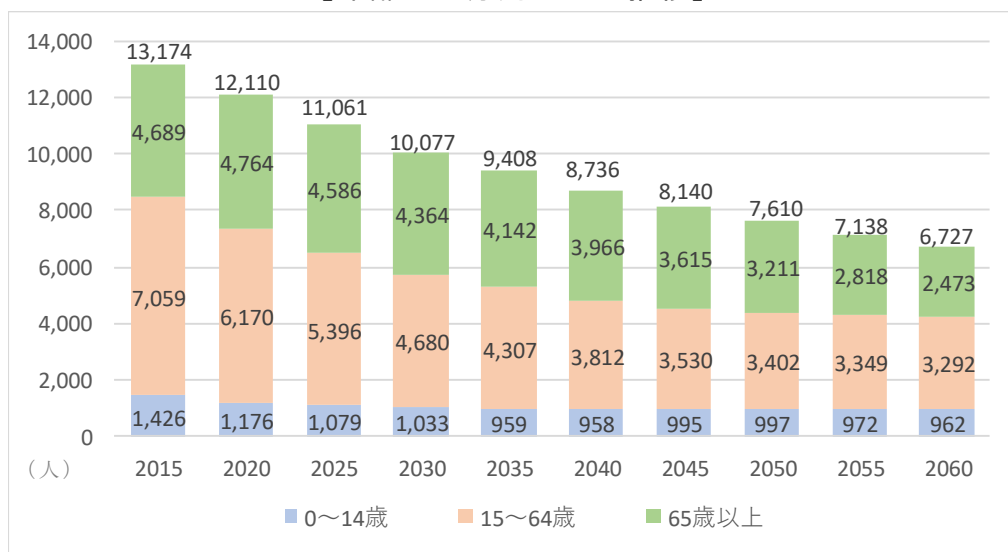
0～14 歳	9.2%	7.6%	6.6%	5.9%	5.5%	5.3%	5.2%	4.9%	4.6%	4.3%
15～64 歳	45.5%	42.6%	39.3%	37.0%	35.1%	31.9%	30.3%	29.1%	28.7%	28.4%
65～74 歳	30.3%	32.9%	33.4%	34.5%	36.0%	38.6%	39.5%	38.8%	38.7%	39.2%
75 歳以上	15.0%	16.8%	20.7%	22.6%	23.4%	24.1%	25.0%	27.3%	28.1%	28.0%

※四捨五入により、各年齢階級の合計が 100%にならない

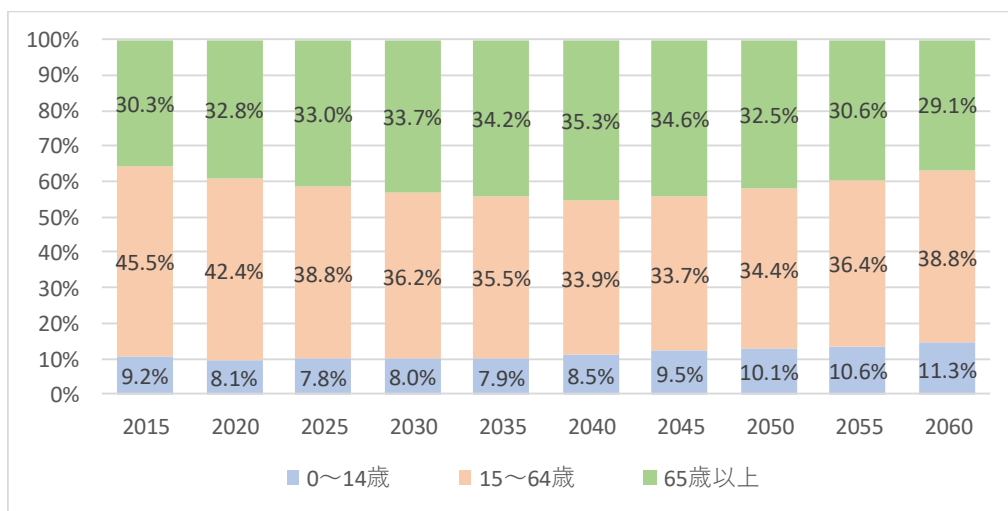
②パターン 1

①～⑤の推計のなかで最も人口減少が緩やかで、2060（令和 42）年の総人口が 6,727 人（▲48.9%）となります。老年人口が 2040（令和 22）年で生産年齢人口を上回り、年少人口は 2040（令和 22）年から割合が増加します。

【年齢 3 区分別人口の推移】



【年齢 3 区分別人口割合の推移】



【人口の推移と推計人口】

	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
合 計	13,174	12,110	11,061	10,077	9,408	8,736	8,140	7,610	7,138	6,727
0～4 歳	343	370	321	296	320	343	333	321	317	323
5～9 歳	443	364	394	343	296	320	342	333	321	317
10～14 歳	640	442	364	394	343	296	320	342	333	321
15～19 歳	632	548	378	311	394	343	296	319	342	333
20～24 歳	443	421	364	252	311	393	342	296	319	342
25～29 歳	461	432	409	359	252	311	393	342	295	318
30～34 歳	511	436	411	391	358	251	310	392	341	295
35～39 歳	644	481	413	390	390	357	251	309	391	340
40～44 歳	888	613	458	394	389	389	356	250	308	390
45～49 歳	785	862	595	444	392	387	387	354	249	307
50～54 歳	809	759	835	576	441	388	384	384	352	247
55～59 歳	841	800	752	828	569	435	384	379	380	347
60～64 歳	1,045	818	780	734	813	558	427	377	372	373
65～69 歳	1,398	1,007	790	753	713	789	542	415	365	361
70～74 歳	965	1,322	957	753	717	680	754	518	396	348
75～79 歳	801	869	1,194	870	696	662	632	700	480	366
80～84 歳	714	654	720	997	759	611	582	557	617	422
85～89 歳	476	524	489	549	773	601	488	462	445	492
90 歳以上	335	388	437	442	485	622	617	559	515	484

＜年齢4階級別人口＞

0～14 歳	1,426	1,176	1,079	1,033	959	958	995	997	972	962
15～64 歳	7,059	6,170	5,396	4,680	4,307	3,812	3,530	3,402	3,349	3,292
65～74 歳	4,689	4,764	4,586	4,364	4,142	3,966	3,615	3,211	2,818	2,473
75 歳以上	2,326	2,435	2,839	2,858	2,713	2,496	2,319	2,278	2,056	1,764

＜年齢4階級別人口割合＞

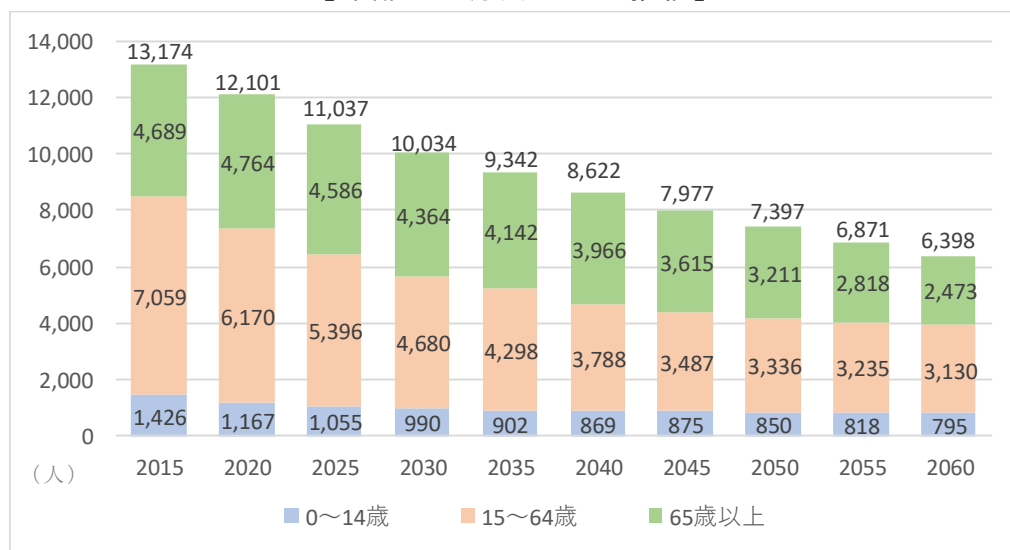
0～14 歳	9.2%	8.1%	7.8%	8.0%	7.9%	8.5%	9.5%	10.1%	10.6%	11.3%
15～64 歳	45.5%	42.4%	38.8%	36.2%	35.5%	33.9%	33.7%	34.4%	36.4%	38.8%
65～74 歳	30.3%	32.8%	33.0%	33.7%	34.2%	35.3%	34.6%	32.5%	30.6%	29.1%
75 歳以上	15.0%	16.7%	20.4%	22.1%	22.4%	22.2%	22.2%	23.0%	22.4%	20.8%

※四捨五入により、各年齢階級の合計が 100%にならない

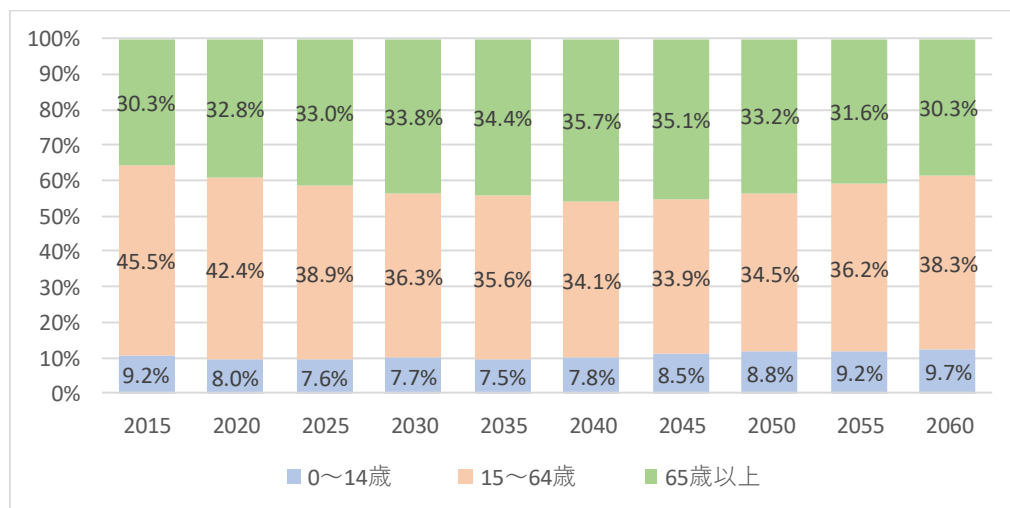
③パターン 2

①～⑤の推計のなかで「②パターン 1」に次いで人口減少が緩やかで、2060（令和 42）年の総人口が 6,398 人（▲51.4%）となります。老年人口が 2040（令和 22）年で生産年齢人口を上回り、年少人口は 2040（令和 22）年から割合が増加します。

【年齢 3 区分別人口の推移】



【年齢 3 区分別人口割合の推移】



【人口の推移と推計人口】

	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
合 計	13, 174	12, 101	11, 037	10, 034	9, 342	8, 622	7, 977	7, 397	6, 871	6, 398
0～4 歳	343	361	307	278	296	295	284	271	262	261
5～9 歳	443	364	385	328	278	296	295	284	271	262
10～14 歳	640	442	364	384	328	278	296	295	284	271
15～19 歳	632	548	378	311	384	327	278	296	295	284
20～24 歳	443	421	364	252	311	384	327	278	296	294
25～29 歳	461	432	409	359	252	311	383	326	277	295
30～34 歳	511	436	411	391	358	251	310	382	326	277
35～39 歳	644	481	413	390	390	357	251	309	381	325
40～44 歳	888	613	458	394	389	389	356	250	308	380
45～49 歳	785	862	595	444	392	387	387	354	249	307
50～54 歳	809	759	835	576	441	388	384	384	352	247
55～59 歳	841	800	752	828	569	435	384	379	380	347
60～64 歳	1, 045	818	780	734	813	558	427	377	372	373
65～69 歳	1, 398	1, 007	790	753	713	789	542	415	365	361
70～74 歳	965	1, 322	957	753	717	680	754	518	396	348
75～79 歳	801	869	1, 194	870	696	662	632	700	480	366
80～84 歳	714	654	720	997	759	611	582	557	617	422
85～89 歳	476	524	489	549	773	601	488	462	445	492
90 歳以上	335	388	437	442	485	622	617	559	515	484

< 年齢4階級別人口 >

0～14 歳	1, 426	1, 167	1, 055	990	902	869	875	850	818	795
15～64 歳	7, 059	6, 170	5, 396	4, 680	4, 298	3, 788	3, 487	3, 336	3, 235	3, 130
65～74 歳	4, 689	4, 764	4, 586	4, 364	4, 142	3, 966	3, 615	3, 211	2, 818	2, 473
75 歳以上	2, 326	2, 435	2, 839	2, 858	2, 713	2, 496	2, 319	2, 278	2, 056	1, 764

< 年齢4階級別人口割合 >

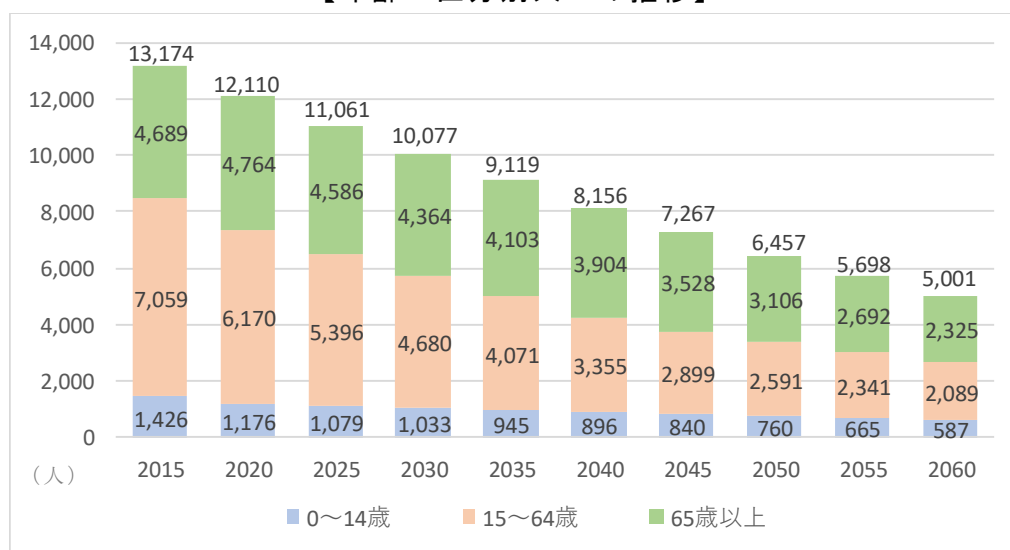
0～14 歳	9. 2%	8. 0%	7. 6%	7. 7%	7. 5%	7. 8%	8. 5%	8. 8%	9. 2%	9. 7%
15～64 歳	45. 5%	42. 4%	38. 9%	36. 3%	35. 6%	34. 1%	33. 9%	34. 5%	36. 2%	38. 3%
65～74 歳	30. 3%	32. 8%	33. 0%	33. 8%	34. 4%	35. 7%	35. 1%	33. 2%	31. 6%	30. 3%
75 歳以上	9. 2%	8. 0%	7. 6%	7. 7%	7. 5%	7. 8%	8. 5%	8. 8%	9. 2%	9. 7%

※四捨五入により、各年齢階級の合計が 100%にならない

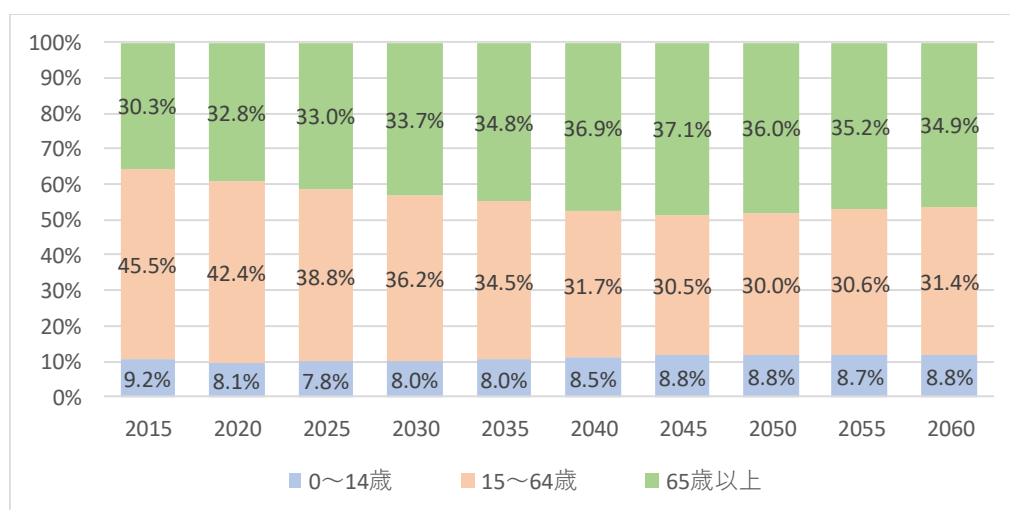
④パターン１（封鎖なし）

「②パターン１」と同様の合計特殊出生率の設定ですが、移動率は社人研推計に準拠しているため人口減少が著しく、2060（令和 42）年の総人口が 5,001 人（▲62.0%）となります。老年人口が 2035（令和 17）年で生産年齢人口を上回りますが、年少人口の割合は概ね一定に推移します。

【年齢 3 区分別人口の推移】



【年齢 3 区分別人口割合の推移】



【人口の推移と推計人口】

	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
合 計	13,174	12,110	11,061	10,077	9,119	8,156	7,267	6,457	5,698	5,001
0～4 歳	343	370	321	296	286	273	240	208	183	167
5～9 歳	443	364	394	343	317	306	293	258	224	196
10～14 歳	640	442	364	394	343	317	306	293	258	224
15～19 歳	632	548	378	311	338	294	272	262	251	221
20～24 歳	443	421	364	252	207	224	195	180	174	167
25～29 歳	461	432	409	359	247	204	222	193	178	172
30～34 歳	511	436	411	391	343	236	195	212	185	171
35～39 歳	644	481	413	390	371	326	223	185	202	175
40～44 歳	888	613	458	394	372	354	311	213	177	193
45～49 歳	785	862	595	444	382	361	344	303	208	172
50～54 歳	809	759	835	576	430	370	350	334	293	201
55～59 歳	841	800	752	828	572	427	368	348	332	292
60～64 歳	1,045	818	780	734	810	560	418	360	341	325
65～69 歳	1,398	1,007	790	753	712	786	543	406	349	330
70～74 歳	965	1,322	957	753	719	681	753	520	389	334
75～79 歳	801	869	1,194	870	687	656	625	691	476	355
80～84 歳	714	654	720	997	732	583	557	533	589	404
85～89 歳	476	524	489	549	772	572	462	440	423	466
90 歳以上	335	388	437	442	481	627	587	515	467	436

<年齢4階級別人口>

0～14 歳	1,426	1,176	1,079	1,033	945	896	840	760	665	587
15～64 歳	7,059	6,170	5,396	4,680	4,071	3,355	2,899	2,591	2,341	2,089
65～74 歳	4,689	4,764	4,586	4,364	4,103	3,904	3,528	3,106	2,692	2,325
75 歳以上	2,326	2,435	2,839	2,858	2,672	2,437	2,232	2,180	1,954	1,661

<年齢4階級別人口割合>

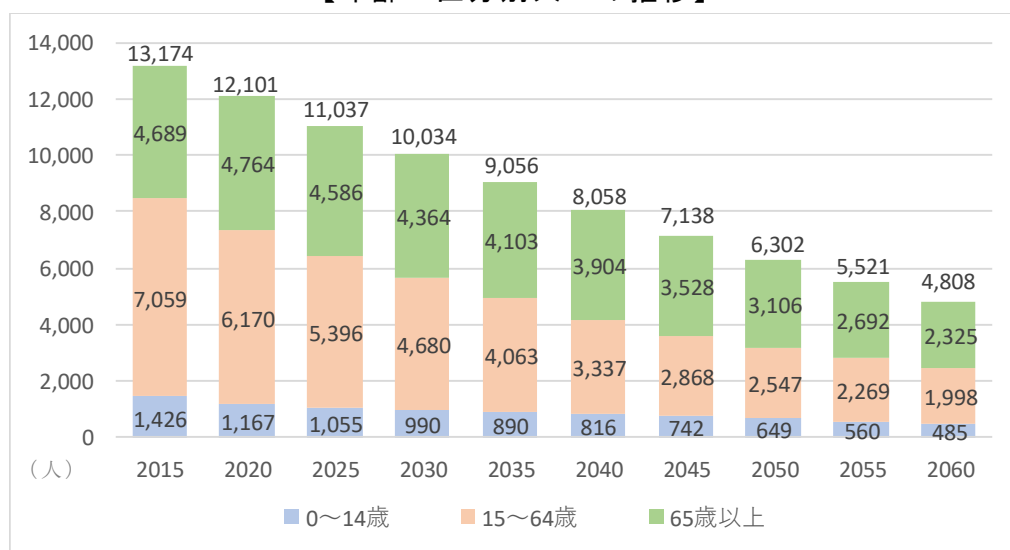
0～14 歳	9.2%	8.1%	7.8%	8.0%	8.0%	8.5%	8.8%	8.8%	8.7%	8.8%
15～64 歳	45.5%	42.4%	38.8%	36.2%	34.5%	31.7%	30.5%	30.0%	30.6%	31.4%
65～74 歳	30.3%	32.8%	33.0%	33.7%	34.8%	36.9%	37.1%	36.0%	35.2%	34.9%
75 歳以上	15.0%	16.7%	20.4%	22.1%	22.7%	23.0%	23.5%	25.2%	25.5%	24.9%

※四捨五入により、各年齢階級の合計が 100%にならない

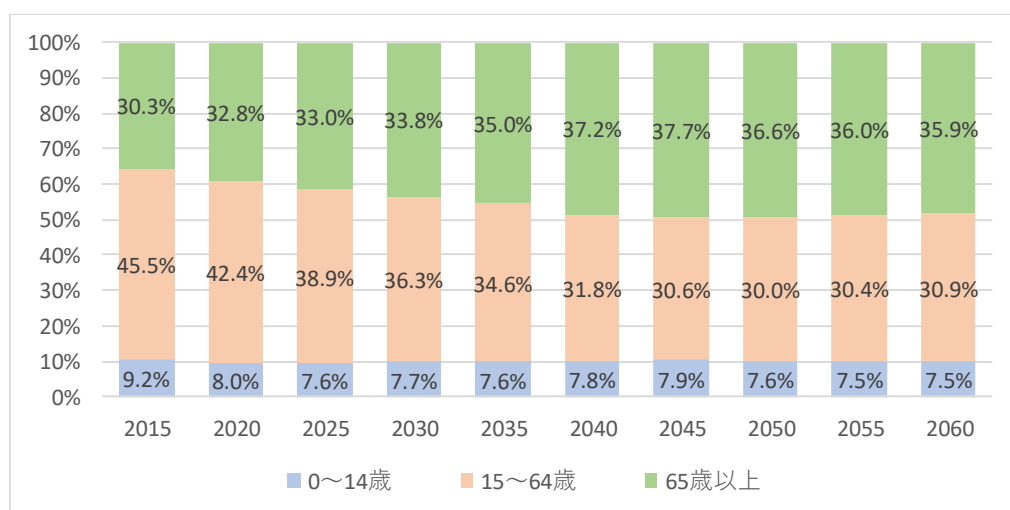
⑤パターン２（封鎖なし）

「③パターン２」と同様の合計特殊出生率の設定ですが、移動率は社人研推計に準拠しているため人口減少が著しく、2060（令和 42）年の総人口が 4,808 人（▲63.5%）となります。老年人口が 2035（令和 17）年で生産年齢人口を上回りますが、年少人口の割合は概ね一定に推移します。

【年齢 3 区分別人口の推移】



【年齢 3 区分別人口割合の推移】



【人口の推移と推計人口】

	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
合計	13,174	12,101	11,037	10,034	9,056	8,058	7,138	6,302	5,521	4,808
0～4 歳	343	361	307	278	265	235	205	176	150	134
5～9 歳	443	364	385	328	298	284	253	220	189	162
10～14 歳	640	442	364	384	327	298	284	253	220	189
15～19 歳	632	548	378	311	329	280	255	243	216	189
20～24 歳	443	421	364	252	207	219	186	169	161	144
25～29 歳	461	432	409	359	247	204	216	184	168	160
30～34 歳	511	436	411	391	343	236	195	207	176	160
35～39 歳	644	481	413	390	371	326	223	185	197	168
40～44 歳	888	613	458	394	372	354	311	213	177	188
45～49 歳	785	862	595	444	382	361	344	303	208	172
50～54 歳	809	759	835	576	430	370	350	334	293	201
55～59 歳	841	800	752	828	572	427	368	348	332	292
60～64 歳	1,045	818	780	734	810	560	418	360	341	325
65～69 歳	1,398	1,007	790	753	712	786	543	406	349	330
70～74 歳	965	1,322	957	753	719	681	753	520	389	334
75～79 歳	801	869	1,194	870	687	656	625	691	476	355
80～84 歳	714	654	720	997	732	583	557	533	589	404
85～89 歳	476	524	489	549	772	572	462	440	423	466
90 歳以上	335	388	437	442	481	627	587	515	467	436

<年齢4階級別人口>

0～14 歳	1,426	1,167	1,055	990	890	816	742	649	560	485
15～64 歳	7,059	6,170	5,396	4,680	4,063	3,337	2,868	2,547	2,269	1,998
65～74 歳	4,689	4,764	4,586	4,364	4,103	3,904	3,528	3,106	2,692	2,325
75 歳以上	2,326	2,435	2,839	2,858	2,672	2,437	2,232	2,180	1,954	1,661

<年齢4階級別人口割合>

0～14 歳	9.2%	8.0%	7.6%	7.7%	7.6%	7.8%	7.9%	7.6%	7.5%	7.5%
15～64 歳	45.5%	42.4%	38.9%	36.3%	34.6%	31.8%	30.6%	30.0%	30.4%	30.9%
65～74 歳	30.3%	32.8%	33.0%	33.8%	35.0%	37.2%	37.7%	36.6%	36.0%	35.9%
75 歳以上	15.0%	16.8%	20.5%	22.2%	22.8%	23.2%	23.8%	25.7%	26.1%	25.7%

※四捨五入により、各年齢階級の合計が 100%にならない

8. 目指すべき将来の方向

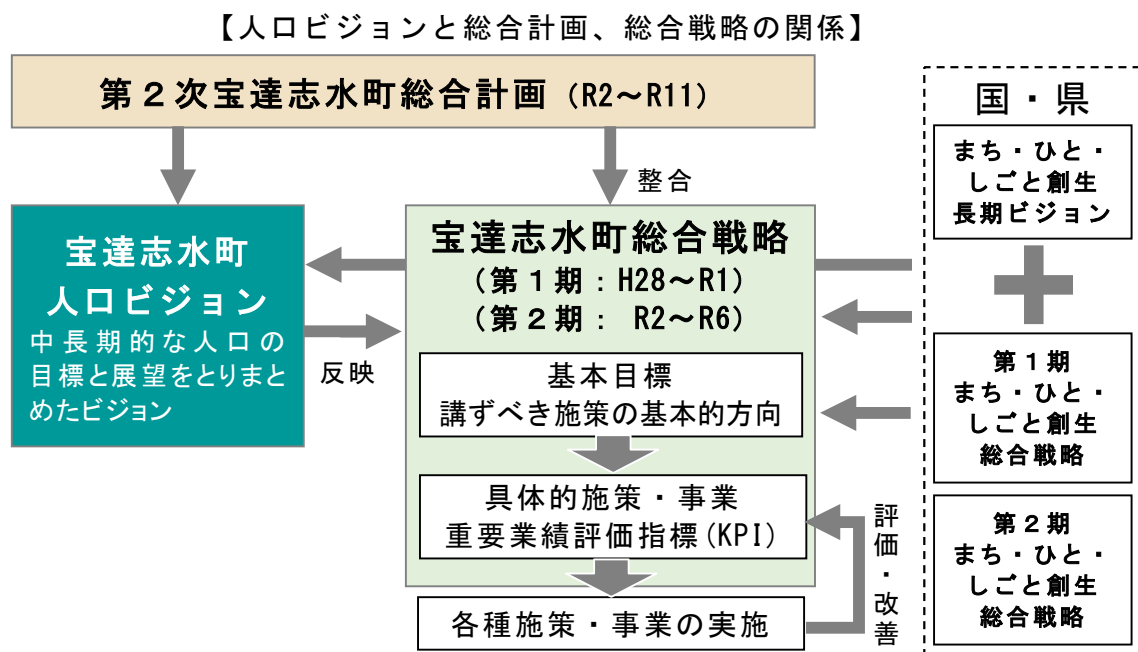
1) 目標人口

人口ビジョンの目標年次を2060（令和42）年とし、目標人口を6,700人とします。

本町の目標人口の年次は、国の長期人口ビジョンに準拠し、2060（平成42）年とします。総合計画や総合戦略の推進により、若者の定住促進や移住希望者への住環境整備及び子育て支援に係る施策などを強化し、若者が育ちみんなが誇れるまちづくりを推進することで、「②パターン1（町独自推計）」の水準（2060（令和42）年に6,700人）の確保を目標とします。

2) 目標人口の実現に向けて

人口ビジョンの実現に向け、2020（令和2）年3月に策定する総合計画と総合戦略を推進していきます。総合計画の対象期間は2029（令和11）年まで、総合戦略の対象期間は2024（令和6）年のため、今後の計画においても人口ビジョンで示す目標人口の実現に向け、地方創生の施策と事業を拡充し、行政と町民が一丸となって進んでいくこととします。



参考：第2次宝達志水町総合計画の概要
(まちづくりのテーマ)

人口減少や少子化といった本町の危機的状況を脱するため、町民と行政が一丸となり、

若者や子育て世代が魅力を実感できるまちを目指します。

町民こそが町の「宝」と考え、将来を担う多様な人材を町の総力を挙げて育成することを通じて
全ての人が活躍できるまちづくりを進めます。

【まちづくりのテーマ】

育てよ！ 町の宝

～ 未来を担う若者が育ち、みんなが誇れるまちづくり ～

まちづくりのテーマの実現に向け、3つのサブテーマを設け、施策を展開します。

①町の宝を育てる

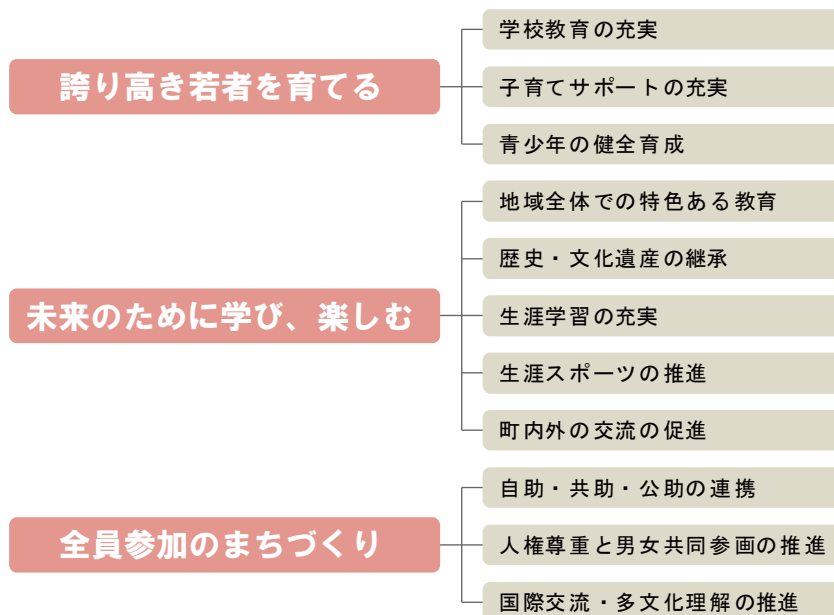
②町の良さを伸ばす

③町の礎を次代につなげる

(施策の体系)

①町の宝を育てる

～ 郷土愛と夢に向かって飛躍する力を育み、UIターンを促す～



②町の良さを伸ばす

～移住・定住に向けたきっかけ・受け皿を強化する～

住み続けられるまちづくり

- 定住の促進
- 良質な生活基盤の充実
- 環境への取組み
- 交通ネットワークの利便性向上
- 戦略的な土地利用の推進
- 情報・通信基盤の整備

誰一人取り残さない社会福祉

- 健康づくりの推進
- 医療体制の充実
- 高齢者福祉の充実
- 障がい者(児)福祉の充実

③町の礎を次代につなげる

～町の活気を保ち、安全・安心を確保する～

産業の可能性を芽吹かせ育てる

- 農林水産業の振興
- 商工業の振興
- 観光の振興

命を守りやすさあるまちづくり

- 消防・防災減災体制の充実
- 防犯・交通安全対策の充実

持続可能な行政経営の実現

- 持続可能な行政運営の推進
- 財政健全化の推進
- 公営企業の経営健全化

参考：第2期宝達志水町総合戦略の体系図

